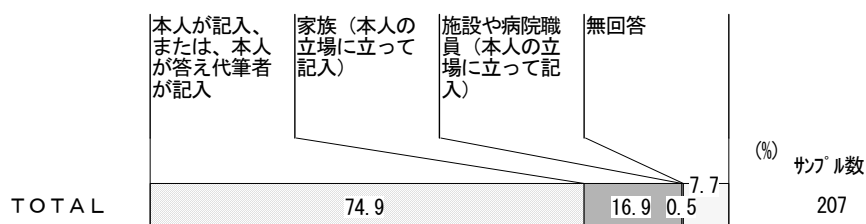


1 基本的な属性等

(1) 調査票の記入者

問1 この用紙(調査票)に記入されるのはどなたですか。(○は1つ)

「本人が記入、または、本人が答え代筆者が記入」が74.9%。

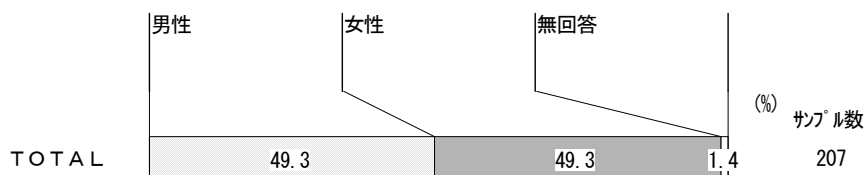


(2) 性別・年齢

問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

問3 年齢(4月1日現在)を記入してください。

性別は、男性が49.3%、女性が49.3%。



年齢は、40代が29.0%、50代が22.2%で、平均年齢は46.5歳。

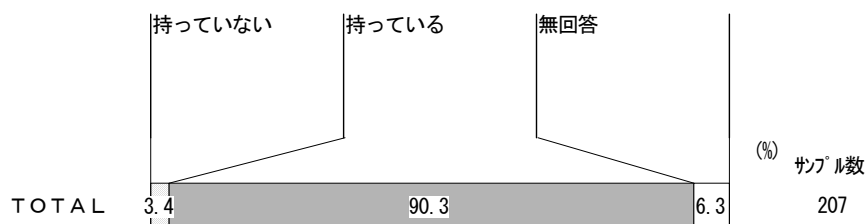
年齢	(%)	平均
10歳未満	0.5%	46.5歳
10代	1.9%	
20代	7.2%	
30代	17.9%	
40代	29.0%	
50代	22.2%	
60代	11.6%	
70代以上	4.3%	
無回答	5.3%	
n=207		

(3) 精神障害者保健福祉手帳の有無、及び書かれている障害の程度

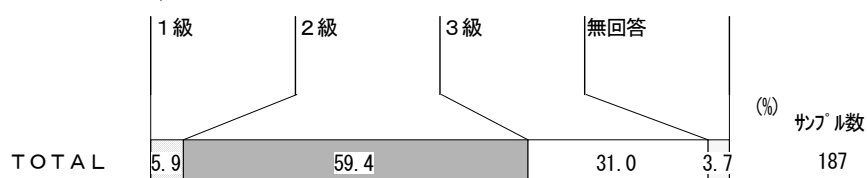
問4 あなたは「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちですか。(○は1つ)

お持ちの場合には、手帳に書かれている障害の程度にも○をつけてください。(○は1つ)

精神障害者保健福祉手帳を「持っている」人は90.3%。



手帳に書かれている障害の程度は、1級が5.9%、2級が59.4%、3級が31.0%。

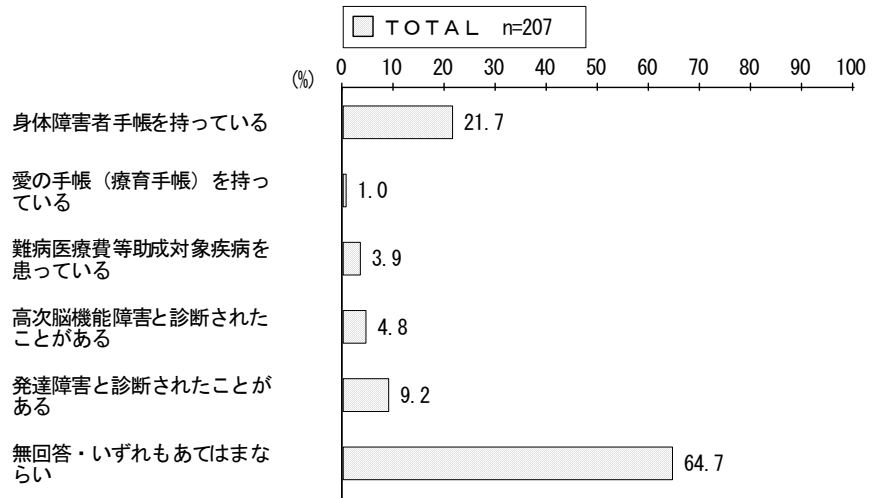


【精神障害者】

(4) 他の障害の状況

問5 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

精神障害以外の障害との重複状況をみると、「身体障害者手帳を持っている」人が21.7%、「発達障害と診断されたことがある」人が9.2%いる。

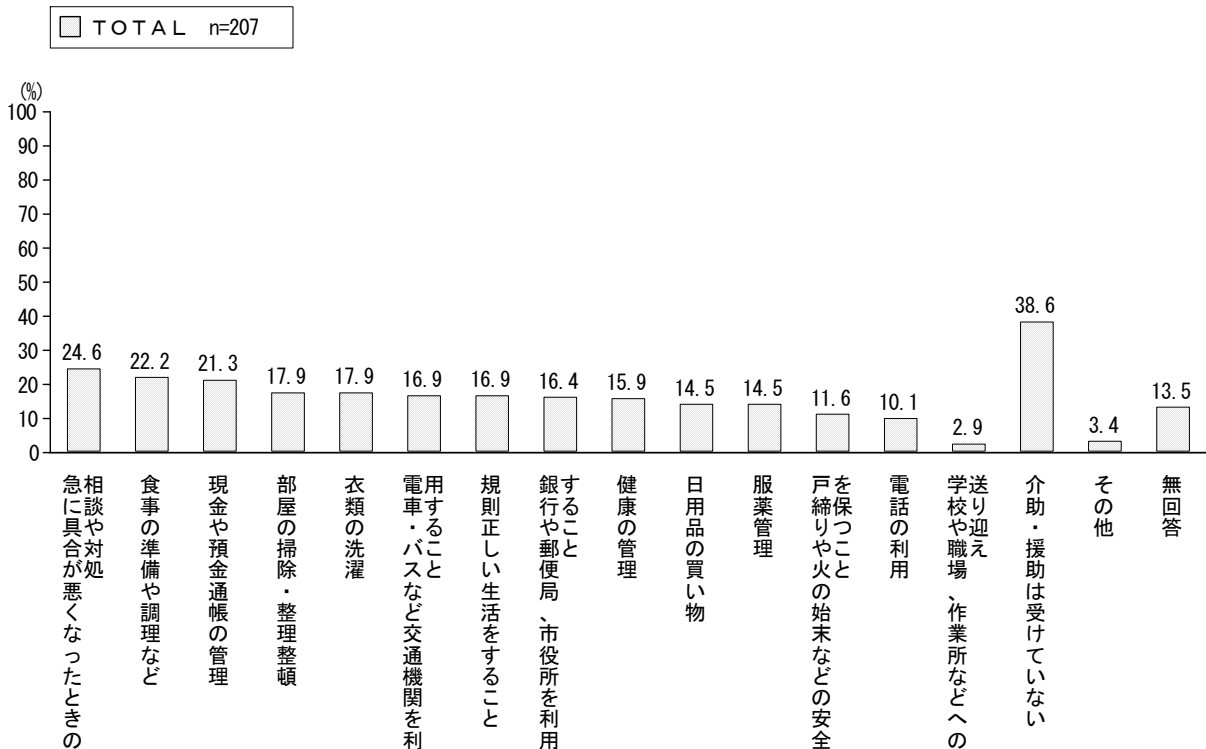


2 介助・援助の状況

(1) 介助・援助を受けている場面

問6 どのようなときに介助・援助を受けていますか。(○はいくつでも)

実際に介助・援助を受けている場面としては、「急に具合が悪くなったときの相談や対処」が24.6%、「食事の準備や調理など」が22.2%、「現金や預金通帳の管理」が21.3%などとなっている。



(2) 介助・援助がほしいと思う場面

問7 介助・援助が欲しいと思うことはありますか。

介助・援助がほしいと思うことについて、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

① 日常生活の援助

- ・ 体調が悪く動けないとき、子どもの学校のこと（登校や準備）や、食事のことや他の家族がいないので病院に行きたいときにいけない（女性・38歳）
- ・ 部屋の掃除や整理整頓（女性・47歳）
- ・ 家の片付け・そうじのとき、手伝ってくれると良いと思う。（女性・54歳）
- ・ 疲れたときに家事を代行してくれるヘルパーさんが欲しい。（娘もいるので、育児は頑張るが家事を頼みたい。）（女性・28歳）
- ・ そうじ、食事など作る気力がないとき、援助がほしいです。市内に病気が悪くなったとき、カウンセリング機関があれば安心です（女性・38歳）
- ・ 自己で判断できませんが、片付けを手つだってほしいと毎日考えます。ケースワーカー等は「自分でやって下さい」しか言いません。病院への付き付添いもしてもらえなくなりました。（男性・36歳）
- ・ 入浴介助（女性・67歳）
- ・ 骨がよわいため、重い作業ができません。かぜをひいたときなどに、ヘルパーさんがほしいと思うことがある。（女性・48歳）
- ・ 介助、援助は欲しいと思います。親は毎日の介助、援助で疲れきっています。（男性・44歳）
- ・ 親が体調の悪い時、忙しい時、休息したい時に移動支援、日中一時支援を。（男性・13歳）

② 外出時の援助

- ・ 気分がよくないとき、送ってほしい（男性・55歳）
- ・ 車でしか行けない所に行くとき。（男性・50歳）

③ 手続き関連の援助

- ・ 学校で予定変更や、ものごとの詳しい説明が、もっとあると助かるそうです。“わからなくなって困る”といます。（女性・13歳）
- ・ 理解できないことへのアドバイス、金銭管理・書類の管理・アドバイスなど。交通機関を利用する練習。（女性・27歳）
- ・ 病院へ入院する時、ヘルパー利用ができると安心。コミュニケーションがとれなくて困っています。（女性・42歳）

④ 相談など

- ・ 相談して欲しい時に、保健師さんに、アドバイスをもらいたい。（男性・41歳）
- ・ 本当につらい時、気持ちをきいてくれ、実行に移してくれること（すぐに）。（女性・54歳）
- ・ 話し相手（女性・41歳）

⑤ その他

- ・ 発達障害で、勤めたこともないので、年金もなく長年全くの無収入です。親がいなくなったとき、金銭の管理もできず、後見制度の援助も受けられず、とても心配しています。（女性・40歳）
- ・ たくさんあるが全て有料なので利用できない（女性・48歳）
- ・ 仕事がなく、収入が障害年金だけで、父（84才）が老人介護施設に入り、費用をねん出することが非常に難しく、日常のことは全て母に（78才）頼んでおり1月半ばから3月の半ば（13日）に病院から退院したものの、非常に生活が苦しいので、父の介護費用の援助がもっと欲しい。（男性・52歳）
- ・ 60才前なので介助・援助を受けたくても介護保険は援助利用できず、困っている。（女性・57歳）
- ・ 電車がこわい。夜道がこわい。人に見られるのが嫌だ。外に出るのが嫌だ。（女性・29歳）

【精神障害者】

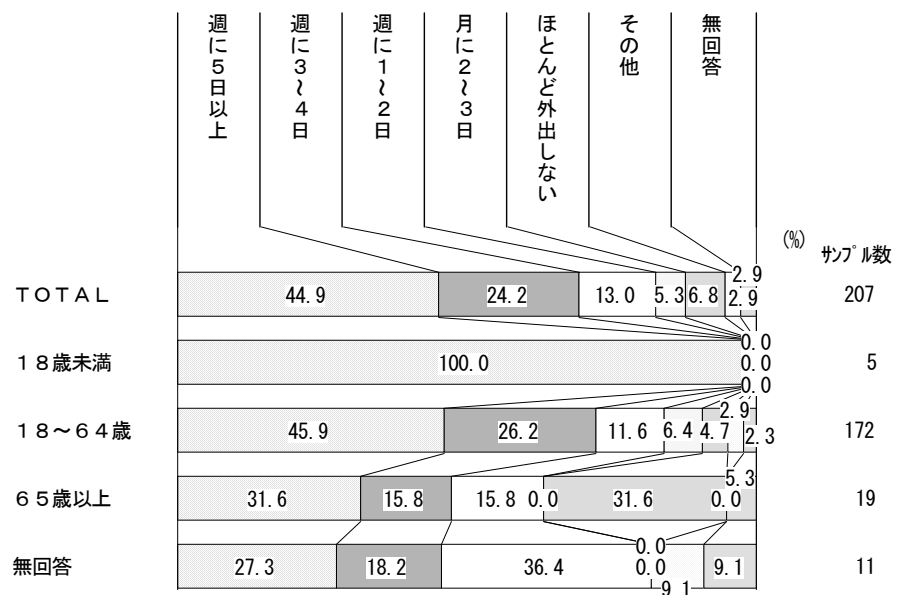
- ・ 地震などの災害があったときに、助けていただきたい。(女性・57歳)
- ・ 7年前に脳梗塞をして、ひだり手が最近、手も思うように動かず、精神的に不安定で、文章を書いたり、まとめたりすることができない。(女性・53歳)
- ・ 体がしんどくて不安定でずっと辛く、ずっとベッドに横になっての生活ですので、なかなか外に出られないし、調子の良い日に、身の周り、生活の全てをこなすので、非常に疲れます。(女性・31歳)

3 外出や社会参加について

(1) 外出頻度

問8 あなたは、どのくらい外出しますか。通園、通学、通勤、通院、買い物、日常の散歩等すべて含めてお答えください。(○は1つ)

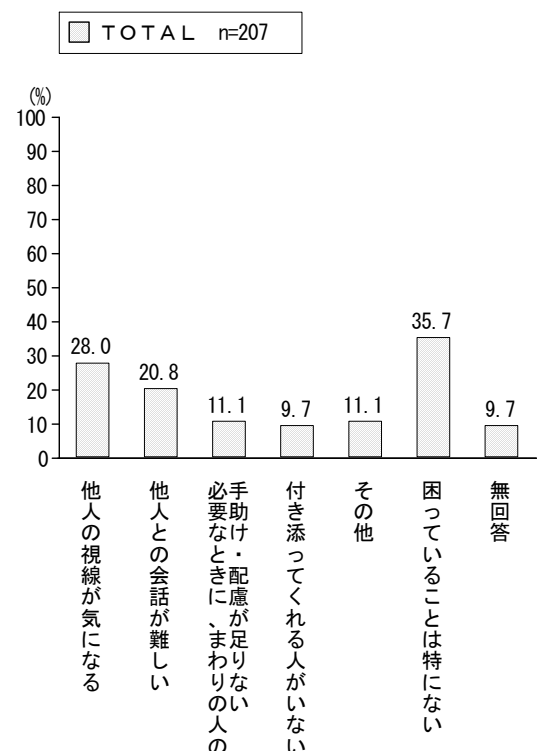
外出の頻度は、「週に5日以上」が44.9%、「週に3～4日」が24.2%と、約7割の人が週に3日以上外出しているが、「ほとんど外出しない」という人も6.8%みられる。



(2) 外出の際に困っていること

問9 外出の際に困っていることがありますか。(○はいくつでも)

外出の際に困っていることとしては、「他人の視線が気になる」ことをあげる人が28.0%と最も多く、次いで「他人との会話が難しい」が20.8%で続いている。



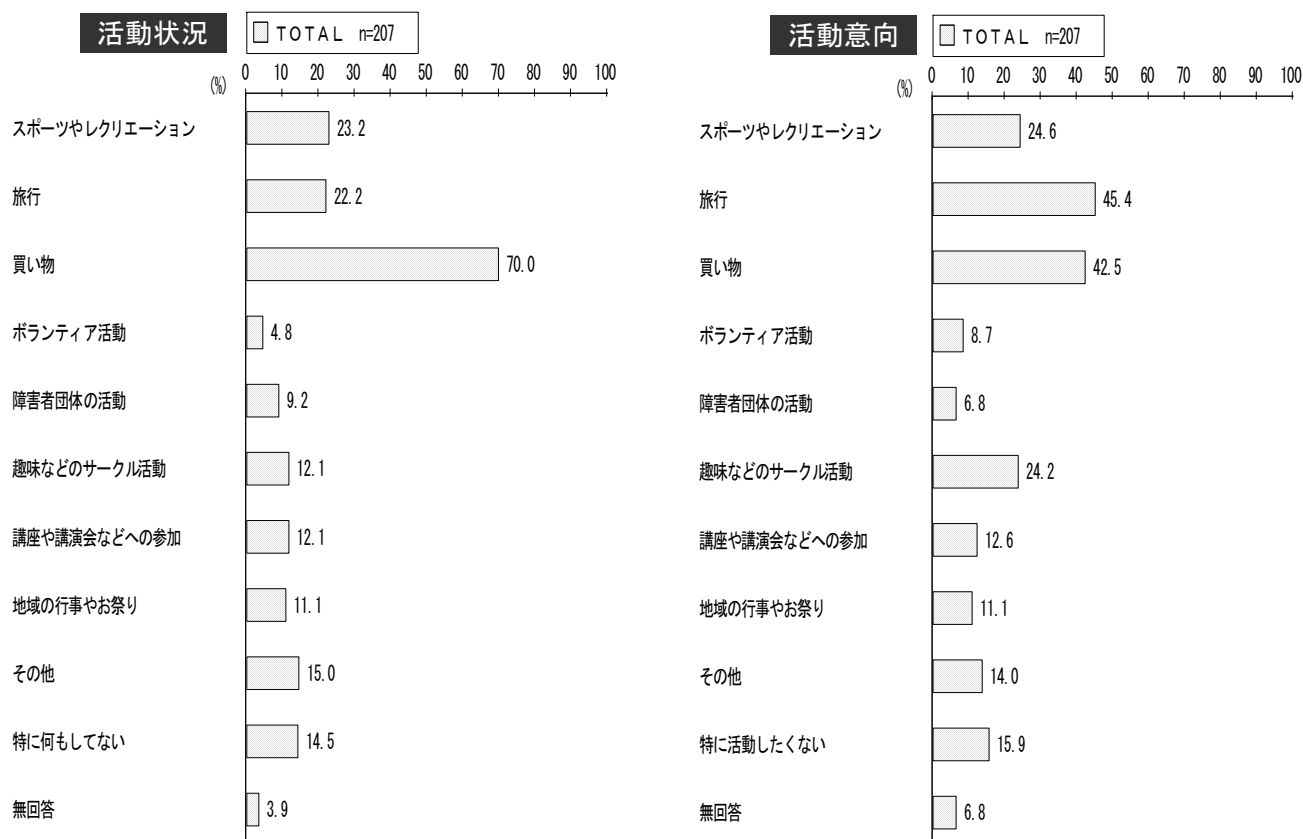
(3) 余暇活動の状況・意向

問 10 この1年くらいの間に、次のような活動をしましたか。(○はいくつでも)

問 11 これからどのような活動をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

最も活動意向が高いのは「旅行」で、45.4%の人が活動したいと回答している。

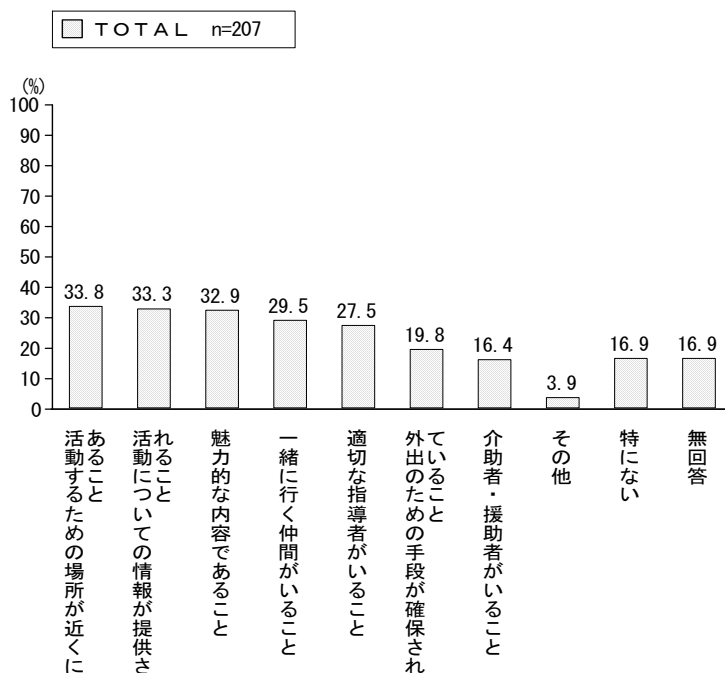
活動状況と活動意向を比較してみると、実際の活動状況に比べて特に活動意向が高いのは、「旅行」(実際 22.2%→意向 45.4%)と「趣味などのサークル活動」(実際 12.1%→意向 24.2%)である。



(4) 余暇活動をするために必要とする環境・条件

問 12 問 11 のような活動をするために、どのような支援が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

希望する余暇活動をするために必要な支援としては、「活動するための場所が近くにあること」(33.8%)、「活動についての情報が提供されること」(33.3%)、「魅力的な内容であること」(32.9%)が3割以上の人にあげられている。

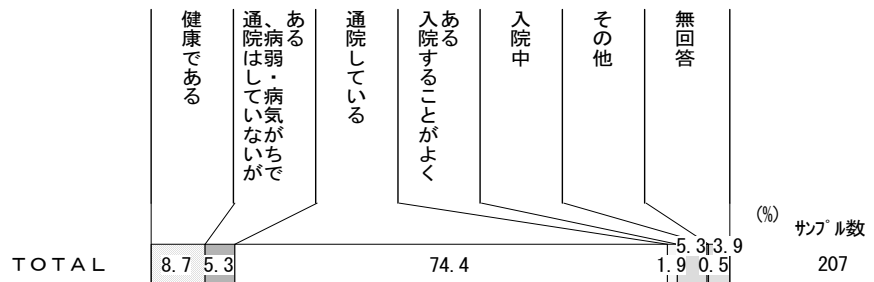


4 健康状態や医療について

(1) 最近の健康状態

問 13 最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つ)

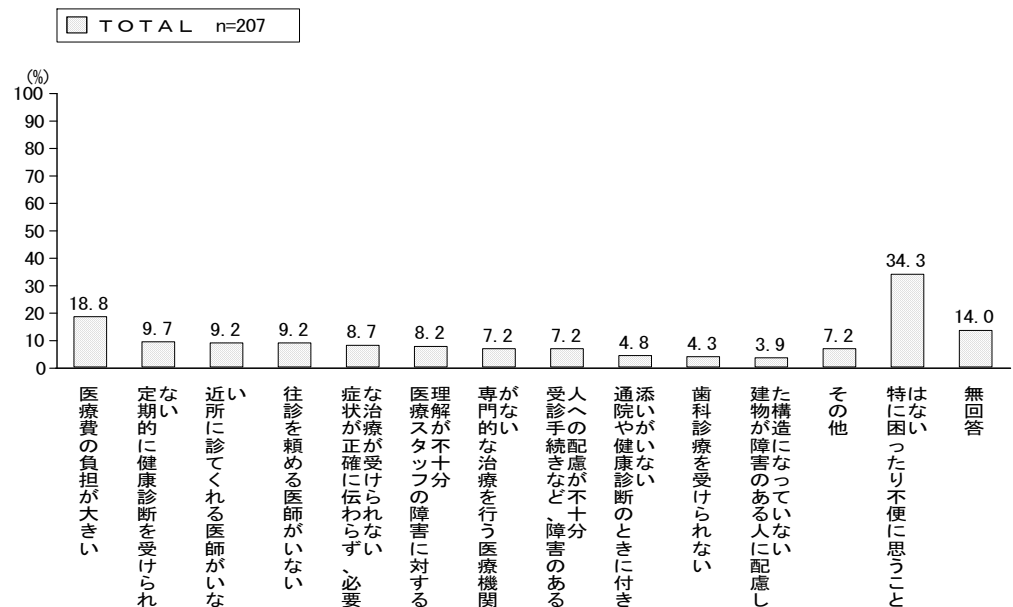
最近の健康状態をたずねたところ、74.4%の人が「通院している」と回答している。



(2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 14 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。(○はいくつでも)

健康管理や医療については、34.3%の人が「特に困ったり不便に思うことはない」と回答しているが、あげられた項目としては、「医療費の負担が大きい」が18.8%と最も多くなっている。



(3) 入所・入院期間

問 15 入所・入院期間はどのくらいですか。(○は1つ)

病院・施設などに入院・入所して看護・介護を受けている人は15.0%。入所・入院期間は、「半年未満」3.9%、「半年以上1年未満」1.4%、「1年以上3年未満」4.3%、「3年以上」5.3%である。

n	半年未満	半年以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上	入院・入所していない
TOTAL 207	3.9%	1.4%	4.3%	5.3%	85.0%

(4) 退所・退院の見通し

問 16 退所・退院の見通しはありますか。また、退所・退院の希望はありますが。(○は1つ)

病院・施設などに入院・入所して看護・介護を受けている人に、退所・退院の見通しをたずねたところ、16.1%の人が「退所・退院の見通しがある」、25.8%が「現在、見通しはないが、いつかは退所・退院したい」と回答しており、「退所・退院したいとは思わない」という人はいなかった。

n	退所・退院の見通しがある	現在、見通しはないが、いつかは退所・退院したい	退所・退院したいとは思わない	その他	わからない	無回答
TOTAL 31	16.1%	25.8%	—	9.7%	22.6%	25.8%

(5) 退院後の生活を考えたときの不安

問 17 退院後の生活を考えたときにどのような不安がありますか。(○はいくつでも)

「退所・退院の見通しがある」または「現在、見通しはないが、いつかは退所・退院したい」と回答した 13 人に、退院後の生活を考えたときの不安をたずねたところ、7 人 (53.8%) が「病気のこと」、6 人 (46.2%) が「生活費のこと」、5 人 (38.5%) が「掃除や片付け、洗濯のこと」をあげている。

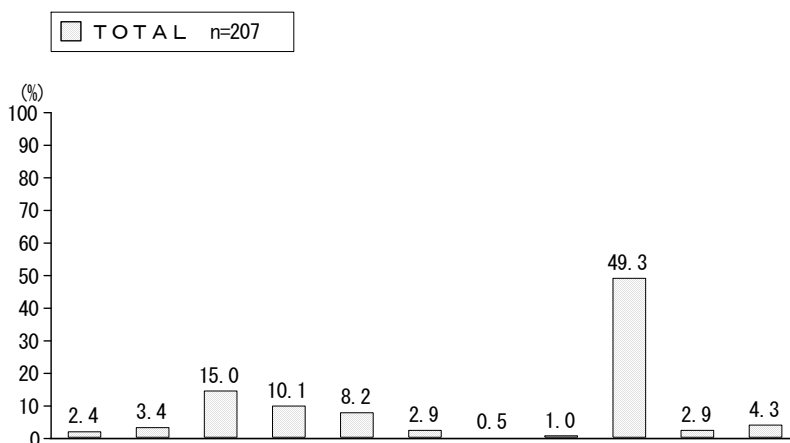
	n	病気のこと	生活費のこと	掃除や片付け、洗濯のこと	仕事や職場の人間関係	住まいのこと	毎日の食事のこと	家族や親せきのこと	現金や貯金通帳の管理のこと	隣近所との関係	通院や外出のこと	自由時間(余暇)の過ごし方	日用品などの買い物のこと	服薬や健康管理のこと	相談相手のこと	無回答
TOTAL	13	53.8%	46.2%	38.5%	30.8%	30.8%	30.8%	23.1%	23.1%	15.4%	15.4%	15.4%	7.7%	7.7%	7.7%	7.7%

5 日中の過ごし方

(1) 日中の過ごし方

問 18 あなたは、主に日中をどのように過ごしていますか。(○は1つ)

日中の過ごし方・居場所は、20代・30代の約4割、50代以上の5割以上が、「特に何もしていない(自宅にすることが多い)」と回答している。



問3 年齢(10歳刻み)	n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		幼稚園や保育園、学校などに通っている	病院や施設などで看護・介護を受けている	働いている	デイケアに通っている	作業所に通っている	プハウスなどに通っている	当事者の会、家族会、断酒会などに通っている	ボランティア活動に参加している	特に何もしていない(自宅にすることが多い)	その他	無回答
0 TOTAL	207	2.4	3.4	15.0	10.1	8.2	2.9	0.5	1.0	49.3	2.9	4.3
1 10歳未満	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 10代	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 20代	15	6.7	6.7	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	6.7
4 30代	37	0.0	0.0	16.2	8.1	18.9	0.0	2.7	0.0	43.2	5.4	5.4
5 40代	60	0.0	1.7	13.3	11.7	8.3	3.3	0.0	1.7	50.0	6.7	3.3
6 50代	46	0.0	2.2	21.7	8.7	6.5	4.3	0.0	2.2	52.2	0.0	2.2
7 60代	24	0.0	8.3	4.2	20.8	4.2	8.3	0.0	0.0	54.2	0.0	0.0
8 70歳以上	9	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
9 無回答	11	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	63.6	0.0	27.3

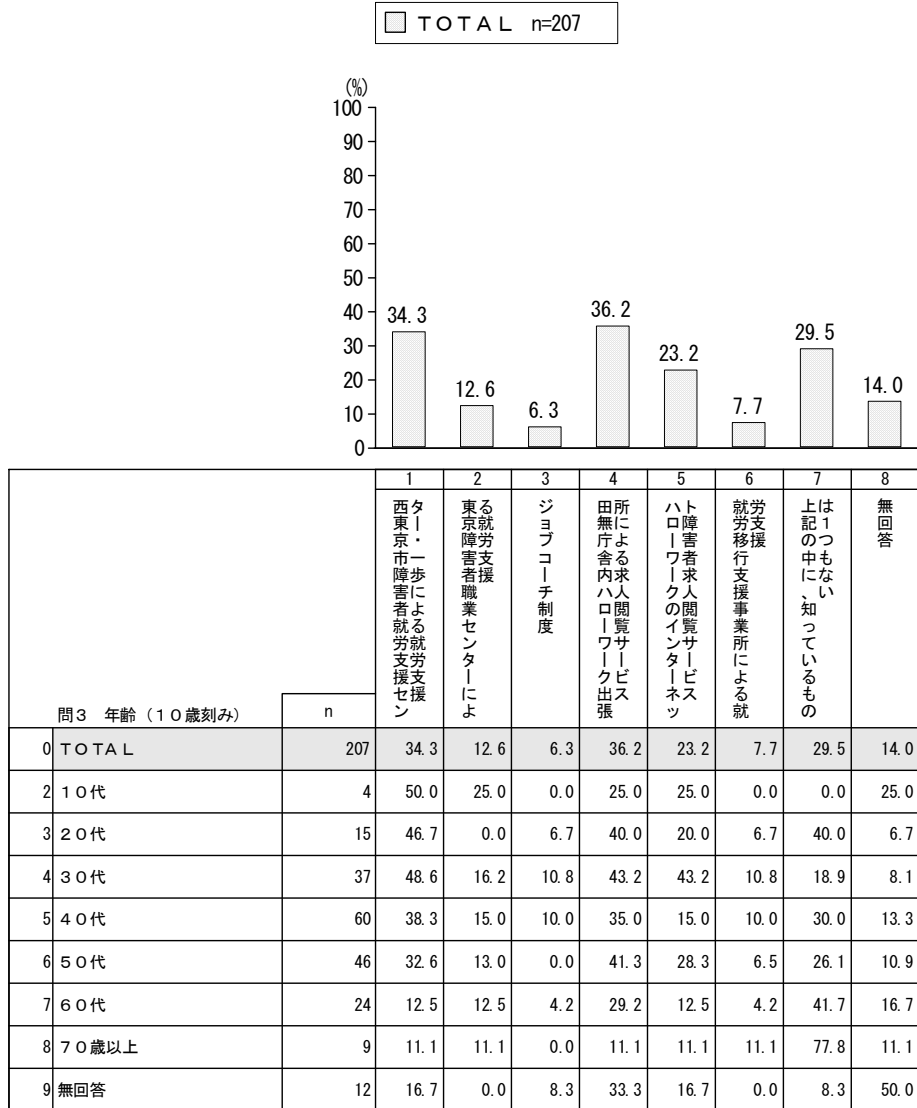
6 雇用・就労について

(1) 就労に関するサービスの認知状況

問 19 就労に関する次のサービスを知っていますか。(〇はいくつでも)

就労に関するサービスの中で、最も知られているのは「田無庁舎内ハローワーク出張所による求人閲覧サービス」(36.2%)。

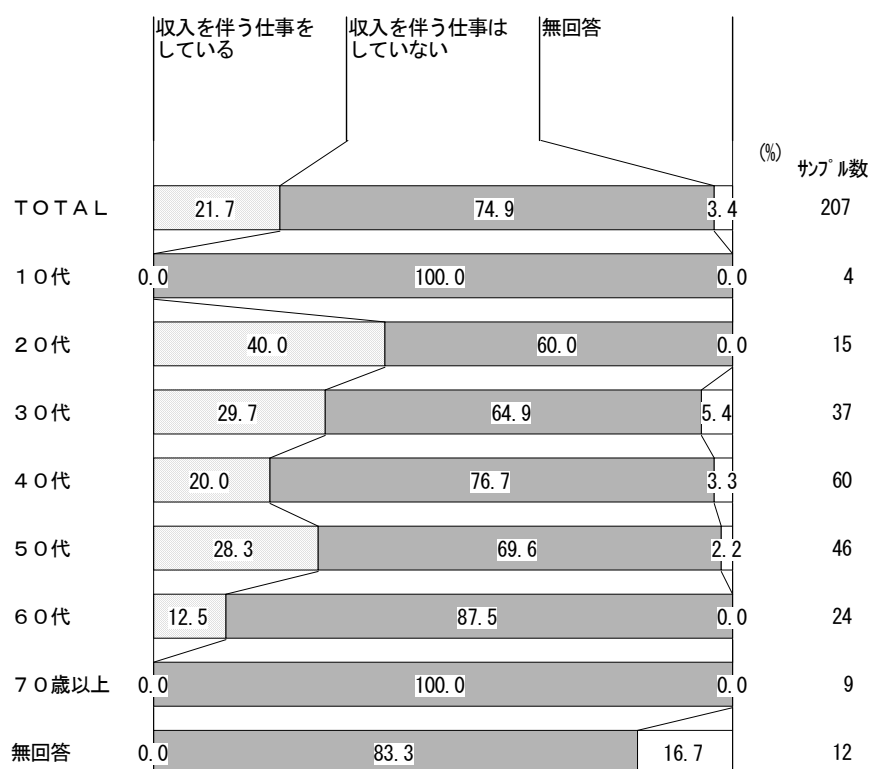
年齢別にみると、20～40代では「西東京市障害者就労支援センター・一歩による就労支援」が最も知られており、特に30代では約半数の人が知っている。



(2) 就労状況

問 20 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)

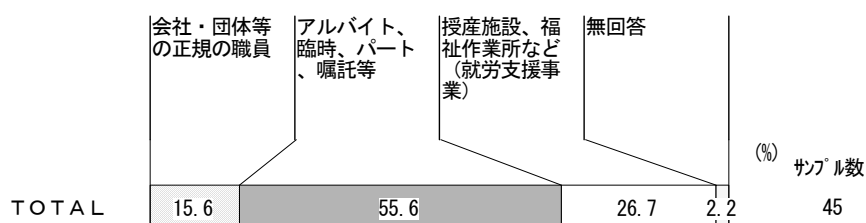
収入を伴う仕事をしている人の割合は、30代では約3割(29.7%)、40代では2割(20.0%)である。



(3) 就労形態

問 21 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

就労形態は、「アルバイト、臨時、パート、嘱託等」が55.6%を占め、「授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)」が26.7%となっている。



【精神障害者】

(4) 給与・賃金額

問 22 あなたご自身の1ヶ月当たりの平均的な給与・賃金はいくらですか。

全体でみると、1ヶ月あたりの平均的な給与・賃金は、平均 76,713 円である。

就労形態別にみると、1ヶ月あたりの平均的な給与・賃金は、「会社・団体等の正規職員」では 190,000 円、「アルバイト、臨時、パート、嘱託等」では 72,521 円、「授産施設、福祉作業所など（就労支援事業）」では 14,025 円となっている。

【全体】

TOTAL	~10,000円	10,001~30,000円	30,001~70,000円	70,001~100,000円	100,001~150,000円	150,001~170,000円	170,001~200,000円	200,001~350,000円	無回答	平均
45	15.6%	22.2%	13.3%	17.8%	4.4%	4.4%	8.9%	4.4%	8.9%	76,713円

【会社・団体等の正規の職員】【アルバイト、臨時、日雇い】

TOTAL	~10,000円	10,001~30,000円	30,001~70,000円	70,001~100,000円	100,001~150,000円	150,001~170,000円	170,001~200,000円	200,001~350,000円	無回答	平均	
会社・団体等の正規の職員	7	-	-	14.3%	-	14.3%	-	42.9%	28.6%	-	190,000円
アルバイト、臨時、パート、嘱託等	25	8.0%	16.0%	20.0%	32.0%	4.0%	8.0%	4.0%	-	8.0%	72,521円

【授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)】

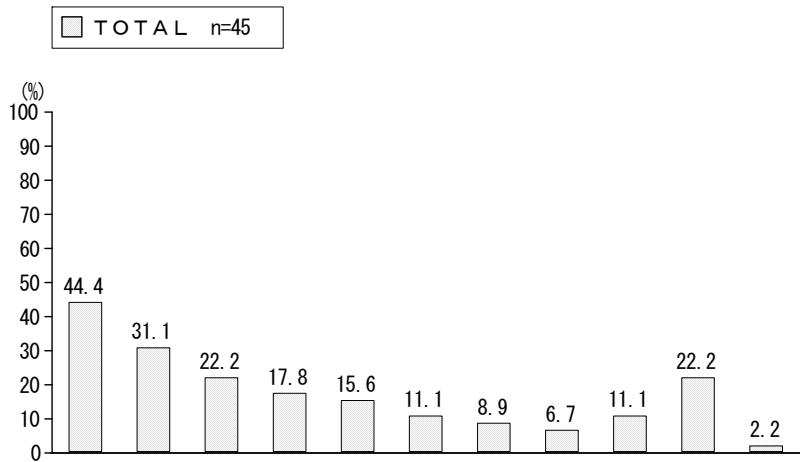
	~5,000円	5,001~10,000円	10,001~15,000円	15,001~30,000円	無回答	平均	
授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)	12	25.0%	8.3%	25.0%	25.0%	16.7%	14,025円

(5) 仕事をする上で困っていること

問 23 仕事をする上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

困っていることとしては、「給与・工賃などの収入が少ない」ことをあげる人が 44.4%と最も多い。

就労形態別にみると、「授産施設、福祉作業所など（就労支援事業）」で働いている人では、12人中11人(91.7%)が「給与・工賃などの収入が少ない」ことをあげている。

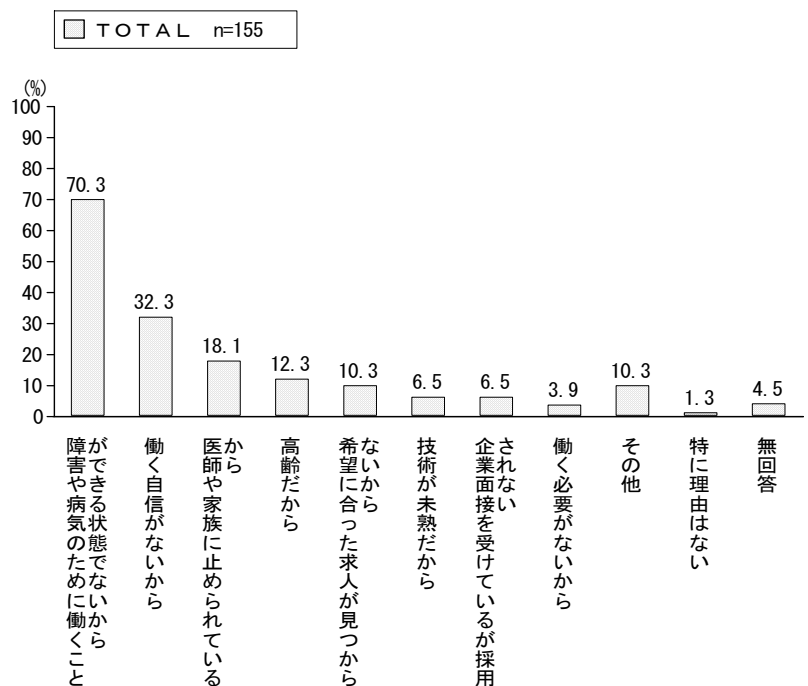


問 21 仕事形態	n	困っていること										
		1 給与・工賃などの収入が少ない	5 職場の人間関係	3 通勤が大変	2 勤務に不安、日数が多く体力的	7 障害に対する職場の理解不足	4 業務内容が合わない	8 職場外で相談相手がいない	6 職場の設備が障害に対応して	9 その他	10 特に困っていることはない	11 無回答
0 TOTAL	45	44.4	31.1	22.2	17.8	15.6	11.1	8.9	6.7	11.1	22.2	2.2
2 会社・団体等の正規の職員	7	14.3	42.9	57.1	57.1	28.6	14.3	14.3	0.0	28.6	28.6	0.0
3 アルバイト、臨時、パート、嘱託等	25	32.0	36.0	20.0	8.0	16.0	12.0	8.0	8.0	8.0	28.0	4.0
5 授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)	12	91.7	16.7	8.3	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0
7 無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

(6) 働いていない理由

問 24 働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

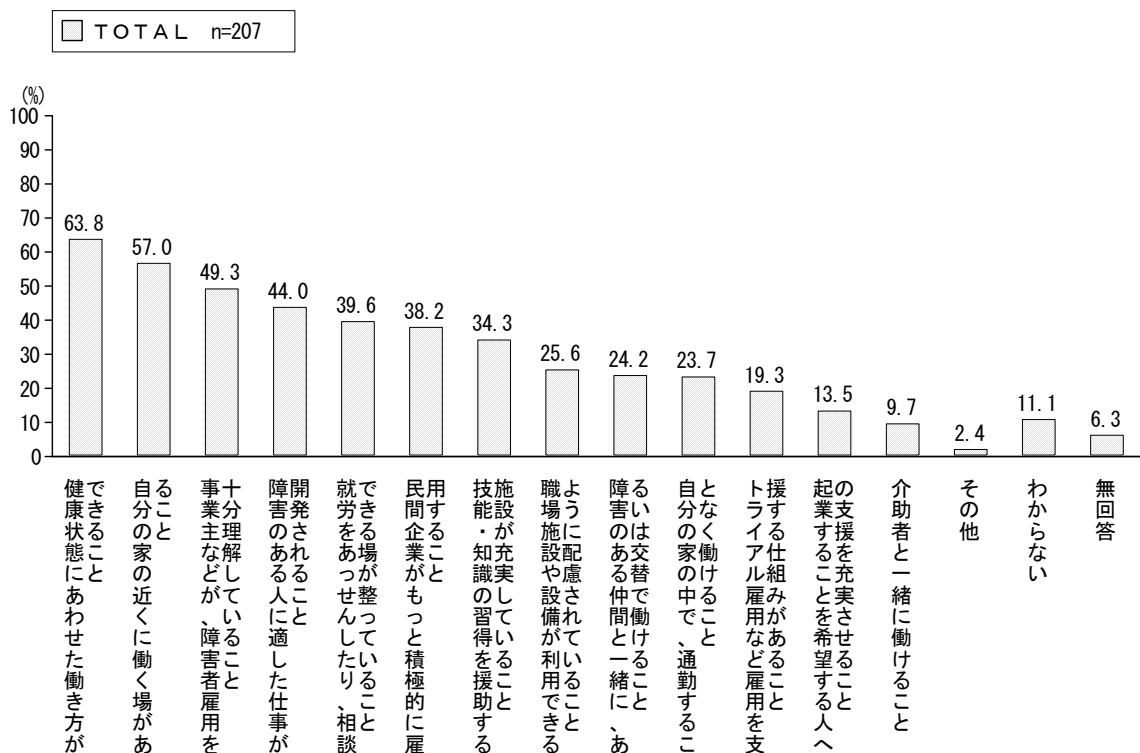
働いていない理由としては、約7割の人が「障害や病気のために働くことができる状態でないから」をあげているが、「働く自信がないから」という人も約3割(32.3%)みられる。



(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件

問 25 障害のある方が働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

障害のある人が働くために必要な環境等としては、「健康状態にあわせた働き方ができること」をあげる人が63.8%と最も多く、次いで「自分の家の近くに働く場があること」(57.0%)、「事業主などが、障害者雇用を十分理解していること」(49.3%)と続いている。



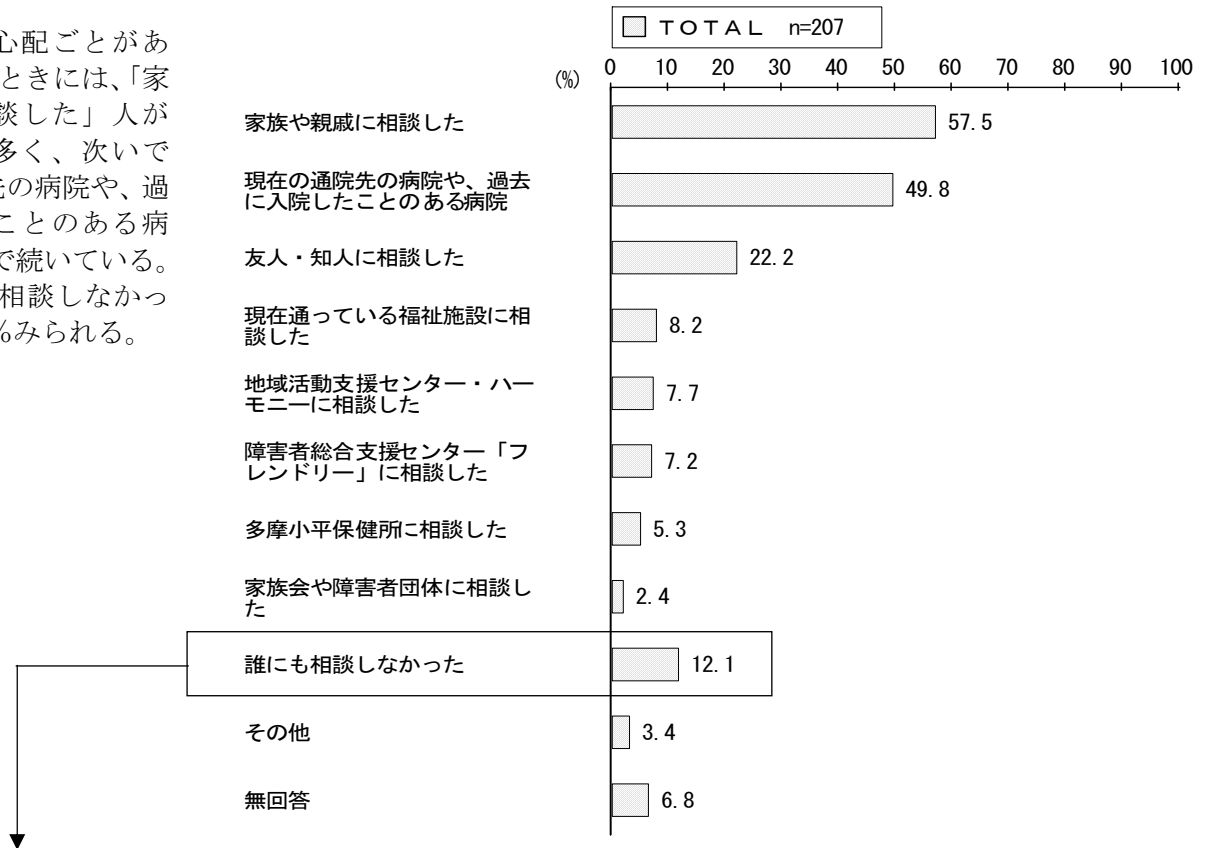
7 相談や情報入手について

(1) 悩みごとや心配ごとや、困ったときの相談先

問 26 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、夜間や休日に急に具合が悪くなったときなど、困ったときに誰かに相談しましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

問 27 差し支えなければ、相談しなかった理由をお書きください。

悩みごとや心配ごとがあるとき、困ったときには、「家族や親戚に相談した」人が57.5%と最も多く、次いで「現在の通院先の病院や、過去に入院したことのある病院」が49.8%で続いている。なお、「誰にも相談しなかった」人が12.1%みられる。



「誰にも相談しなかった」理由を尋ねたところ、以下のような記入があった。

- ・ 相談しても、治らない病気が原因なので、どうもならないので。(女性・40歳)
- ・ 悩みや心配ごとというのは、答がすでにわかっているから(男性・53歳)
- ・ どうせ理解してもらえないから。(男性・50歳)
- ・ 誰かに相談しても自分の苦しみをわかってもらえないから(男性・40歳)
- ・ 相談しても良い結果を期待できなかったから。(女性・71歳)
- ・ 相手がいなかった。
- ・ 深夜から明け方にかけて、精神不安におそわれるが、その時間帯どこへ電話をかけても出てくれないから。(女性)
- ・ 相談する人が浮かばなかった。(女性・57歳)
- ・ 近くに相談する人がいない。(男性・50歳)
- ・ 相談しても話を聞いてくれないのであきらめている。(男性・45歳)
- ・ 相談しても無駄だから(女性・61歳)
- ・ 悩み事はあるが、人に相談できる事ではないから(男性・56歳)
- ・ なんとかかなると思った。寝ていればよくなると思った。(男性・50歳)
- ・ 電話代がかかるから、迷惑を掛けるから。(女性・31歳)

(2) 希望する相談先や相談体制

問 28 悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また、相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。

希望する相談先や相談体制について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

① 相談先

- ・ 病院、ハーモニー、フレンドリー、作業所、一歩、臨床心理士に相談したい。(男性・38歳)
- ・ えぽつく。カウンセラーみたいな方、発達障害を理解している方がいると良い(女性・27歳)
- ・ 支援センター、保健所、かかりつけの主治医のクリニック。(男性・41歳)
- ・ 保谷障害者福祉センターの先生(男性・47歳)
- ・ 体調に関わることなら医師に、社会的なことであれば市役所に相談したいです。(女性・34歳)
- ・ 通院している病院の先生、カウンセリングを受けたい。(女性・37歳)
- ・ 医療機関(男性・61歳)
- ・ メロディーの看護師さん(女性・47歳)
- ・ 訪問看護師さんやケアマネジャーに相談している(女性・72歳)
- ・ 病院の主治医、ケースワーカー(女性・35歳)
- ・ 訪問介護ナース・デイ職員(女性・57歳)
- ・ 病気について十分理解した人がいる機関や施設(男性・48歳)
- ・ 精神神経医、精神の学びを受けているソーシャルワーカーに出会える事と思います。(女性・62歳)
- ・ 社会資源を良く知っている相談員(PSW)に相談してアドバイスがほしい(男性・32歳)
- ・ 民生委員(男性・65歳)
- ・ じっくりと話をきいてくれる医者・カウンセラー(男性・55歳)
- ・ 友だちやデイケアの職員さんに(女性・41歳)
- ・ 作業所のスタッフ等。(男性・57歳)
- ・ カウンセラー、自立支援対象など出費が少なく。(男性・43歳)
- ・ 先生。作業所のスタッフ。(女性・41歳)
- ・ 公的相談室(男性・63歳)
- ・ 信用できる職員または、支援センターがいいと思う。(男性・33歳)
- ・ 生活保護のケースワーカー、一歩のケースワーカー(男性・51歳)
- ・ 役所のケースワーカーがケアマネジャーになってほしい。(男性・34歳)

② 相談体制

- ・ 今かかっている病院へ。電話でカウンセリングしてくれるような。(男性・48歳)
- ・ 弁護士・気軽に相談できる環境(男性・50歳)
- ・ 以前のように生活福祉課の方が定期的に訪問して話をきいてほしい。(女性・38歳)
- ・ 公共の施設、24時間体制(専門家)(女性・57歳)
- ・ ハーモニー以外に市役所で精神医療に詳しい方がいるといいです。(女性・38歳)
- ・ 友人やカウンセラー、友だちがいたり、カウンセリングの場があるとよい(男性・25歳)

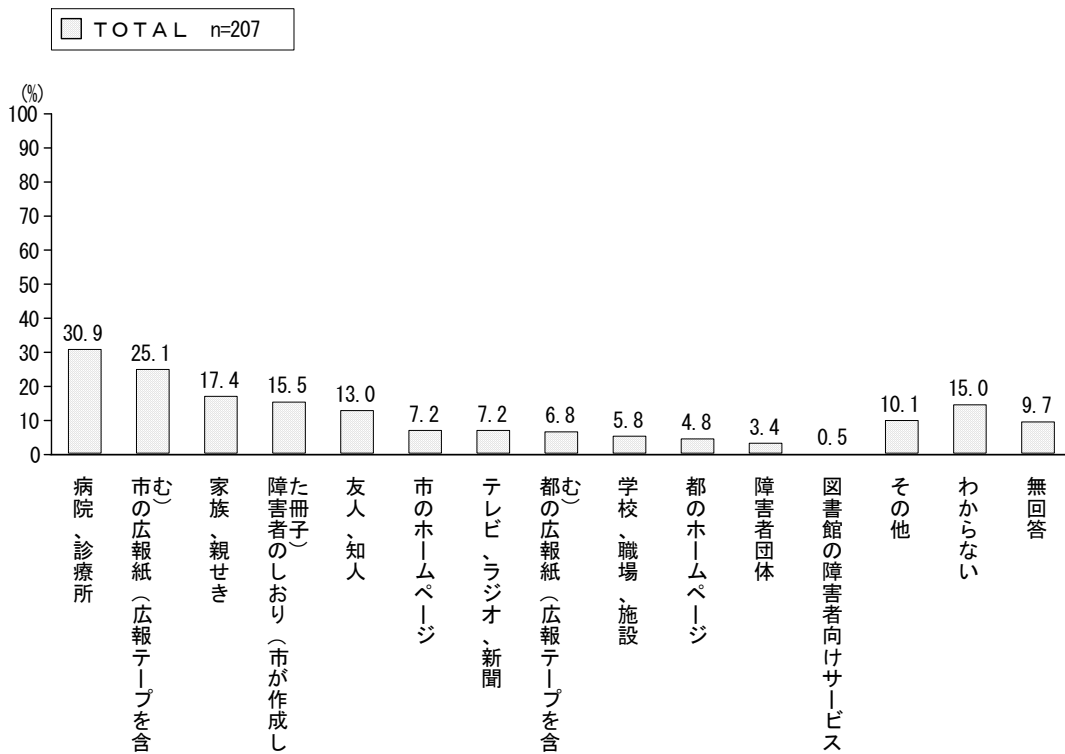
【精神障害者】

- ・ 友人・知人・同僚・上司。気を使わなくて済むような体制が整っているとよい。(男性・27歳)
- ・ 主治医、病院の医療相談室。秘密厳守であること。(女性・35歳)
- ・ 弁護士、健常者より優先で、相談させてくれるシステム(女性・44歳)
- ・ 医者に話を聞いてもらえる、電話／メールの仕組み(女性・41歳)
- ・ 病院の先生、学校の前の担任の先生(女性・10歳)
- ・ 病院の主事医、ソーシャルワーカーで24時間体制の公の相談窓口があればよい(女性・41歳)
- ・ 24時間、体調が悪くなった時に相談、来院できる(病院)体制が整っているとよい。(男性・52歳)
- ・ 無料のカウンセリングができる所(女性・45歳)
- ・ 話を否定せずに聞く。(男性・56歳)
- ・ 電話等で相談できたら良いと思います。(男性・40歳)
- ・ ハーモニー、フレンドリー、小平保健所に夜間(9時～5時)に電話相談したいと毎晩思っているが、それができないので、早急にできる体制をつくっていただきたい。(女性)
- ・ 病気を理解してくれること(女性・54歳)
- ・ 当事者会があれば良いと思います。(男性・65歳)
- ・ 同じ病気を患ったが現在回復し元気な人へ、アドバイスを求めたい。(先輩患者によるアドバイス会など)(女性・28歳)
- ・ 同じ悩みを持っている人たちのHP等があればいいな。(女性・48歳)
- ・ 過去に重い障害など克服した人からのアドバイス。カウンセリングなどもあまりお金がかからないやり方でやってほしいです。(女性・29歳)
- ・ 自分の病状や生活をわかってきているケアマネがいてくれれば良いと思う。(女性・57歳)
- ・ うつの気持ち等の相談に乗ってくれる人が専門のアドバイスをしてくれる。保健師さんがいてくれると安心する(女性・48歳)
- ・ 市役所の窓口で一元化して相談できるようにしてほしい(男性・50歳)
- ・ 気軽に集まれる場所、近隣とのつながり(男性・43歳)
- ・ 秘密を守ってくれる事。相談してもお金がかからない事。(収入がないから)(女性・34歳)
- ・ 個人が特定されず、人と対面しなくても電話による相談ができるとよい。(女性・42歳)
- ・ 精神医療に詳しい人々が作った団体などが、個別に話を聞いてくれるとうれしい。(男性・35歳)
- ・ インターネットの窓口、携帯からのコール。(女性・48歳)
- ・ 24時間体制の電話相談の充実(女性・49歳)
- ・ 携帯のメールでかんたんに相談したい(女性・34歳)
- ・ 秘密の保持。(男性・25歳)
- ・ 必要なときに気軽に出入りできる施設がほしい。そこにアドバイスしてくれる支援者や仲間がいるといい。(男性・36歳)
- ・ 近くに相談する所があると良いと思う(男性・56歳)
- ・ 仕事帰りに毎日でも立ち寄って話せる方がいて下さると助かります。身近に気軽にどのようなことでも話を聞いてもらえる公的な場が希望です。(女性・55歳)
- ・ 相談したい場所があれば良い(特に近くに)(女性・52歳)
- ・ お金がかからない所。親身になって聞いてくれる人。(女性・31歳)

(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先

問 29 障害福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

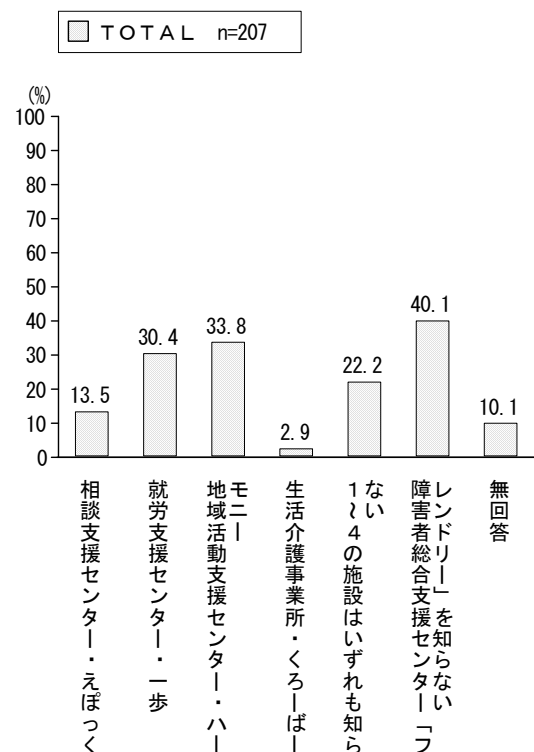
障害福祉サービスなどの情報の入手先としては、「病院、診療所」をあげる人が 30.9%と最も多く、次いで「市の広報紙」(25.1%)、「家族、親せき」(17.4%)と続いている。



(4) フレンドリー内施設の認知状況

問 30 あなたは、西東京市の障害者総合支援センター「フレンドリー」にある次の施設を知っていますか。知っているものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

フレンドリー内施設の認知度は、「相談支援センター・えぼっく」13.5%、「就労支援センター・一歩」30.4%、「地域活動支援センター・ハーモニー」33.8%となっている。



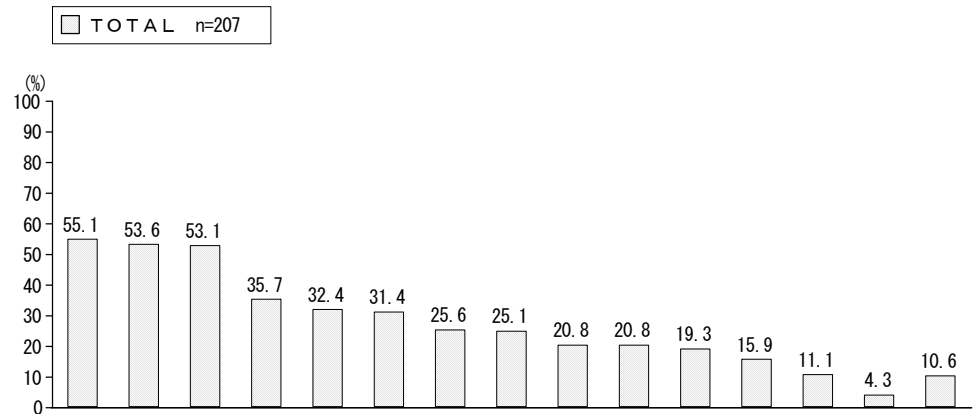
8 福祉サービスについて

(1) 地域で生活していく上で必要なサービス

問 31 あなたが、地域で生活していく上で必要だと思うものはなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

地域で生活して上で必要なものとしては、「いつでも診察してくれる、かかりつけの病院・診療所」(55.1%)、「相談にのってくれる病院、診療所の職員」(53.6%)、「相談にのってくれる市町村の精神保健福祉専門の職員」(53.1%)の3項目がそれぞれ50%を超え高くなっている。

年齢別にみると、20代・30代では、5割以上の方が「就職についての相談ができるところ」(20代53.3%、30代51.4%)をあげている。



問3 年齢 (10歳刻み)	n	サービス項目														
		3	2	1	5	13	4	7	12	8	9	6	10	11	14	15
0 TOTAL	207	55.1	53.6	53.1	35.7	32.4	31.4	25.6	25.1	20.8	20.8	19.3	15.9	11.1	4.3	10.6
2 10代	4	100.0	75.0	75.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	25.0	50.0	75.0	50.0	50.0	0.0	0.0
3 20代	15	46.7	53.3	53.3	46.7	53.3	20.0	33.3	40.0	20.0	20.0	40.0	6.7	20.0	6.7	6.7
4 30代	37	67.6	59.5	62.2	37.8	51.4	40.5	32.4	29.7	18.9	27.0	21.6	18.9	16.2	2.7	5.4
5 40代	60	58.3	60.0	51.7	46.7	31.7	43.3	26.7	30.0	21.7	21.7	21.7	15.0	8.3	3.3	8.3
6 50代	46	37.0	50.0	56.5	34.8	30.4	21.7	23.9	21.7	21.7	17.4	8.7	21.7	6.5	4.3	13.0
7 60代	24	50.0	45.8	45.8	12.5	12.5	16.7	20.8	16.7	20.8	16.7	12.5	8.3	12.5	4.2	20.8
8 70歳以上	9	66.7	33.3	44.4	33.3	0.0	33.3	11.1	11.1	33.3	33.3	11.1	11.1	0.0	22.2	11.1
9 無回答	12	66.7	41.7	33.3	8.3	16.7	33.3	8.3	0.0	8.3	0.0	16.7	8.3	8.3	0.0	16.7

(2) 福祉サービスの認知状況・利用経験

問 32 あなたは、次のような障害者サービスがあることを知っていますか。また、利用したことがありますか。(①～⑤のサービスごとに1つずつお答えください。)

問 33 「利用している・利用したことがある」サービスについて、利用した際の感想などをお聞かせください。(上記の①～⑤の番号と、利用の感想等をお書きください。)

以下の5つのサービスのうち、利用経験率(利用している・利用したことがある)が最も高いサービスは、「地域活動支援センター」(14.0%)、次いで「ホームヘルプサービス」(6.3%)。

	利用している・利用したことがある	サービスがあることは知っているが利用したことはない	知らない・わからない	無回答	(%)	サンプル数
ホームヘルプサービス	6.3	26.6	52.7	14.5		207
短期入所(ショートステイ)	3.9	24.2	55.6	16.4		207
生活サポート	2.4	16.4	63.3	17.9		207
日中一時支援	1.9	13.5	66.7	17.9		207
地域活動支援センター	14.0	17.9	52.7	15.5		207

地域で生活していく上で「家事を援助してくれるホームヘルプサービス」が必要と回答した人のうち、約6割は「知らない・わからない」(60.5%)と回答しており、サービスのニーズはあるが、実際にどのようにサービスを利用できるかわからない人が多くいることがうかがえる。「ショートステイ」についても同様で、「入院ではなく休息できる施設(ショートステイ)」が必要と回答した人のうち66.2%は「知らない・わからない」と回答している。

問 31 で、地域で生活していく上で「家事を援助してくれるホームヘルプサービス」が必要と回答

	利用している・利用したことがある	サービスがあることは知っているが利用したことはない	知らない・わからない	無回答
n=43	14.0%	20.9%	60.5%	4.7%

問 31 で、地域で生活していく上で「入院ではなく休息できる施設(ショートステイ)」が必要と回答

	利用している・利用したことがある	サービスがあることは知っているが利用したことはない	知らない・わからない	無回答
n=74	4.1%	18.9%	66.2%	10.8%

サービスを利用した際の感想を自由回答形式で求めたところ、以下のような記入があった。

① ホームヘルプサービス

- ・ もっと来て欲しかった。(女性・48歳)
- ・ 掃除や食事の仕方を教えてもらい助かった。(男性・65歳)
- ・ サービスをして下さる人の質、レベルに差が大きいことがあります。(女性・60歳)
- ・ 伝えたことをやってくれてよかった。(男性・47歳)
- ・ 食事のお弁当、頼みました。おいしかった。(女性・67歳)

② 短期入所(ショートステイ)

- ・ 利用中は目的(生活リズム改善)を果たせていたのですが、利用後に効果を持続できなかつたので、利用法をまちがえたなあと思っています。(女性・34歳)

【精神障害者】

- ・ 職員さんや入居者の人たちとコミュニケーション少なかった。(女性・41歳)
- ・ 親のレスパイトになって助かる。(男性・13歳)
- ・ 月に1回ぐらい利用をさせてもらっている。大変良いと思っている。(女性・76歳)

③ 生活サポート

- ・ 障害者あつかいせずに、とても良く世話をして下さいました。(女性・50歳)
- ・ 1割負担はかなり助けになっています。(女性・48歳)

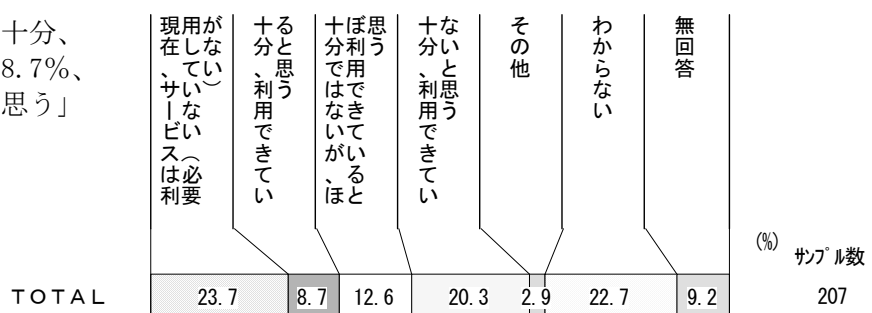
④ 地域活動支援センター

- ・ 何日か講習を受けたが役に立つことはなかった。仕事も自分で探しました。何のための支援なのかわかりません。担当してくれた方に連絡が取れなくなりました。(女性・28歳)
- ・ 職員が一部偽善的。病気に対する理解、男性利用者に対する差別的言動がとても不快だった。(男性・38歳)
- ・ 支援センター「ハーモニー」を利用して友だちができたこと(良いこと)。(男性・41歳)
- ・ 職員の態度が良い人と悪い人がいた。(男性・25歳)
- ・ 丁寧に話を聞いていただきました。その後、自宅に電話もいただき嬉しく思いましたが、本人がなかなか行動を起こすまでに至らず、前進に向けての一步が進まない状態です。(男性・37歳)
- ・ インターネットができるのでよかった。とても親切でよかった。(男性・50歳)
- ・ いろいろ親切な対応をしてくれている。(男性・27歳)
- ・ スタッフの人としか話ができない。たいくつ。(男性・13歳)
- ・ いろいろな人と話ができて、少し病気を気にしないでいられる所がいい。(男性・44歳)
- ・ 利用したくても他の神経痛などでいけないから相談をしたくてもできない。(女性・48歳)
- ・ ハーモニー支援センターはとても親切で何でも相談にのってくれる。(女性・43歳)
- ・ 自分と他の人たちとの障害の度合いや人間性に差がありすぎる。(男性・30歳)
- ・ やることがなくボーとしている。(男性・34歳)
- ・ サービスの内容は初利用時に説明されるが、あとは説明の機会はないし、気軽に説明を求められるふんいきもない。自発的にアピールできる人でないと使えない。(男性・41歳)
- ・ 障害者雇用企業や作業所がのった冊子があり、役に立ちました。作業所の見学に一緒に行っていたでいて、とても助かったです。(女性・38歳)
- ・ 職員が精神病について無知で満足できなかった。(女性・47歳)

(3) 必要なサービスの満足度

問 34 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。(○は1つ)

必要だと思うサービスを「十分、利用できていると思う」人は8.7%、「十分、利用できていないと思う」人は20.3%である。

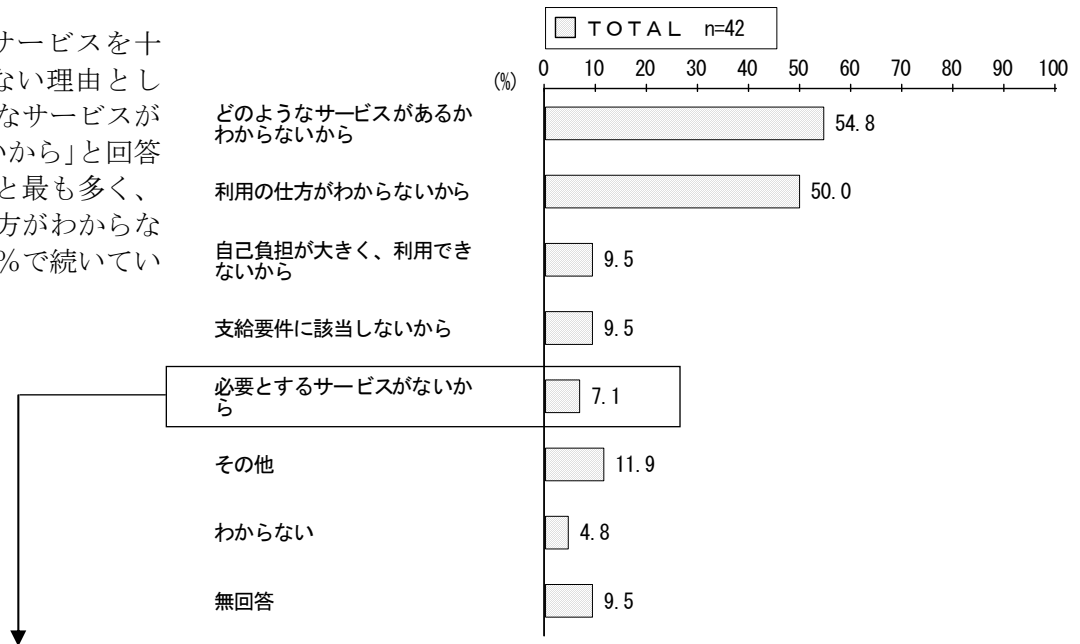


(4) 必要なサービスを十分利用できていない理由

問 35 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

問 36 必要とするサービスとはどのようなものですか。

必要だと思うサービスを十分利用できていない理由としては、「どのようなサービスがあるかわからないから」と回答した人が 54.8%と最も多く、次いで「利用の仕方がわからないから」が 50.0%で続いている。



「必要とするサービスがないから」と回答した人に対して、「必要とするサービス」の具体的な内容について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

- ・ 移動支援で、習い事などの送迎にも区別なくヘルパーさんを使わせてくれること。(男性・13歳)
- ・ 買い物の手助け(女性・27歳)
- ・ 入院時にヘルパー利用したい。(現在4時間)(女性・42歳)
- ・ 部屋の掃除、料理、庭の手入れ、精神面のカウンセリングを低料金で。(女性・57歳)
- ・ 休日、夜間の電話相談機関(いずれも夜9時から明け方5時まで)(女性)
- ・ 食事、休憩のできるような場所(男性・50歳)

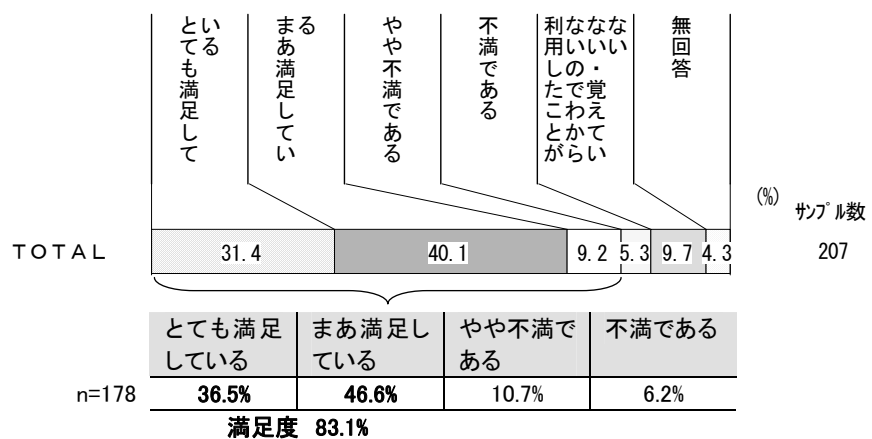
(5) 障害福祉課窓口の満足度

問 37 障害福祉課の窓口利用(保谷庁舎・田無庁舎)についてお聞きます。職員の対応や相談環境などについて満足していますか。(○は1つ)

問 38 問 37 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

障害福祉課の窓口利用の満足度は、「とても満足している」が 31.4%、「まあ満足している」が 40.1%である。

「利用したことないのでわからない・覚えていない」及び「無回答」を除いて、満足している人の割合を計算すると、窓口利用者のうち 83.1%が満足していることがわかる。



【精神障害者】

満足あるいは不満と回答した理由について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

① とても満足している・まあ満足している

- ・ 対応が丁寧でした。(男性・56歳)
- ・ 詳しく親切に説明してくれる。(男性・40歳)
- ・ 手続について、とてもいいねいで、かつほがらかに対応をして下さるからです。(女性・34歳)
- ・ 相談に対して、めんどうがらず、親切にいいねいに教えてくれた。(男性・67歳)
- ・ おだやかに質問を聞いてくれるから(女性・33歳)
- ・ とても親切でわかりやすく説明してくれた。(女性・57歳)
- ・ 職員の方の対応は親切な様に思える。(女性・55歳)
- ・ 市役所の職員さんは冷たい人が多いイメージでしたが、わからないことはとても親切に対応してくれました(男性・29歳)
- ・ 親身になって相談にのってくれるため。(男性・48歳)
- ・ 窓口に来てくれる人がとてもよくしてくれる。(男性・50歳)
- ・ 相談ごとに対して、職員のかたが親切に対応して下さるから(男性)
- ・ 手続きなどで不明点があっても、とてもわかりやすく対応して下さったから。(女性・34歳)
- ・ いつも対応が親切で早い対応と、わかりやすく説明、指導していただいている。(男性・52歳)
- ・ 障害者自立支援医療費受給申請書の書き方を親切、ていねいに教えて下さった。(女性)
- ・ 知識もある方ばかり、優しく、不満に思ったことはないです。(女性・60歳)
- ・ 物腰がやわらかで落ちついている。(女性・41歳)
- ・ 差別しないから(男性・51歳)
- ・ いつも、それほど混雑していないのでゆっくりできる。(男性・50歳)
- ・ 田無庁舎ですぐ対応してくれる(男性・40歳)
- ・ 事務手続きを一緒にやってくれる。(男性・47歳)
- ・ 自立支援医療、手帳の申請時に、適切に対応して下さった。(女性・28歳)
- ・ 自分に必要だと考えられる情報等を伝えていこうとする努力。(男性・30歳)
- ・ 以前よりも対応が良くなった。(男性・39歳)
- ・ 諸々の相談などに乗ってくれるので良いと思っています。(女性・76歳)

② やや不満である・不満である

- ・ 職員によって、知識の差が大きいから。(男性・43歳)
- ・ 介護認定の基準を教えてくれない。(女性・72歳)
- ・ 精神保健福祉手帳をとった段階で、愛の手帳がなくてもサービスを受けられるようになったことを伝えてくれなかったから。(男性・13歳)
- ・ 障害についての知識がほとんど無かった。(女性・10歳)
- ・ 断る課という印象です。幸福になる課と思っていますので、前向に相談に行ける課になると幸いです。(女性・42歳)
- ・ 田無庁舎で手帳の申請について聞いたが「くわしいことはわからない」ということで保谷庁舎に相談に行った。保谷・田無両庁舎の窓口が同じレベルとは思えない。(男性・32歳)

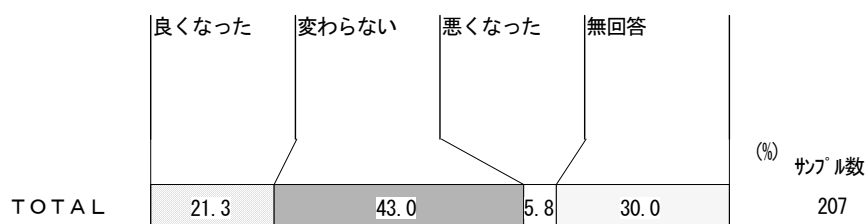
- ・ 訪問してもついたらたての中に入れて、出てこない、気がつかない。人事異動でくわしい人が全くいなくなった。(男性・55歳)
- ・ 話を聞くだけ。職員はカウンターの中より外に出て、家庭の様子は見る事が大事。(男性・71歳)
- ・ 私の担当者は誰ですか?と聞いたら、担当する者はいないと言われた。サービスの事等、何も教えてくれなかった。態度が事務的で冷たかった。(女性・57歳)
- ・ 思いやりがない。ゆっくり話してほしい。サービスを教えてほしい。(女性・44歳)
- ・ 障害者手帳の更新などで、新手帳を受け取るためには保谷庁舎へ行くか、田無庁舎で300円分の切手を提出しないといけないのはとても困ります。(男性・41歳)
- ・ 保谷庁舎でしかできないことがあったりして不便を感じる。(女性・35歳)
- ・ 待つ時間が長い時がある(男性・42歳)
- ・ 質問にはていねいに答えてくれるが、必要な情報をくれることがない。(女性・48歳)
- ・ 手続きや申請以外のことについては、相談しても納得のいく答えがかえってこない。(女性・30歳)

(6) 5年前との比較

問 39 約5年前(平成20年)と比べて、障害者のサービスはどのように変わったと思いますか。(○は1つ)

問 40 問 39 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

5年前と比べて、障害者のサービスが「良くなった」と感じている人は21.3%、「悪くなった」と感じている人は5.8%である。



5年前に比べて障害者のサービスが良くなった、あるいは変わらない・悪くなったと回答した理由について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

① 良くなった

- ・ 手続きが、前より簡単になった。(女性・28歳)
- ・ 障害者手帳が作りやすく、わかりやすくなった。(男性・48歳)
- ・ 民がやる事が早くなった。(女性・51歳)
- ・ 今年になって障害者雇用法で%がアップしたり、職業訓練後、就労するまで支援する体制が少しずつであるが整いつつあると思う。(女性・60歳)
- ・ フレンドリーができたから(男性・29歳)
- ・ 訪問看護に来てもらえるようになって、気持ちが落ち着くようになった(女性・47歳)
- ・ 障害者に良く気を使っている。(男性・57歳)
- ・ サービスの種類が増えた(男性・47歳)
- ・ 訪問サービスがスタートしたこと。(女性・49歳)
- ・ バリエーションが増えました。(男性・43歳)
- ・ 愛の手帳がなくても、支援を受けられるようになったこと。(男性・13歳)
- ・ 障害者自立支援受給者証ができたこと。国がそれを認めたこと。(男性・59歳)
- ・ 精神患者を人間としてあつかうようにはなったと思う(女性・48歳)
- ・ 自立支援の医療費支援があるので。(女性・57歳)

【精神障害者】

- ・ 利用できるものが増えた。制限がゆるやかになったと思います。(女性・60歳)
- ・ 精神病に関しての差別視が薄くなったこと。サービス自体を受けても、人目をさげなくてよくなったこと。(女性・48歳)
- ・ カウセリングが、保険がきくようになったり、生保の人は無料になったり。(女性・41歳)
- ・ 行政の理解は格段にすすんだ。しかしかかる費用や、生きづらさ、学校などや地域現場での理解の低さは、やるせないほど進んでいません。(女性・13歳)

② 変わらない

- ・ 現在1年毎の更新だがもっと期間を長くしてほしい。(障害が現在の医療技術では良くなる見込がない者だけでも)(女性・63歳)
- ・ 特に良くなったと思う点も、悪くなったと思う点もないから。(男性・38歳)
- ・ 障害者に対して、まだ偏見の意見が、多いから。(男性・41歳)
- ・ まわりの市や区は、診断書の発行料無料など、経済的負担がへっているのに、保谷はかわらない。(男性・55歳)
- ・ 何も変らない。議員を通さないと課長、係長がうごかないから、窓口では各個人でやりなさいという方針だから。相談員が親身になって話をきこうとしない。また、上司に相談して返事すると言いながら何年たっても返事がない。(男性・71歳)
- ・ メリットのあるサービスがはっきり言ってない(女性)
- ・ 自分で動かないと結局サービスを受けるまでに至らないこと。(男性・30歳)
- ・ 「フレンドリー」という器はできたが、職員の未熟さが目立つ。ふみこんだ相談をしても、勉強不足。「ハーモニー」では、通院している病院の私的感想を言われ、不安になった。(女性・30歳)
- ・ 最初から満足できるレベルだった(男性)

③ 悪くなった

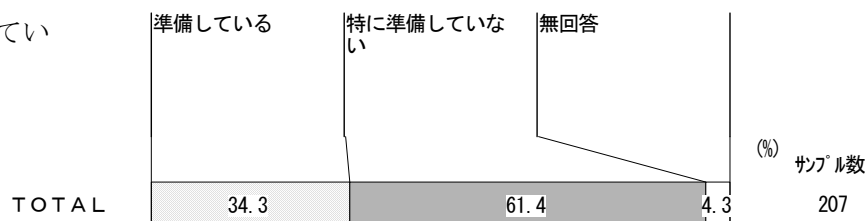
- ・ 障害を悪用する人が増え、本当にサービスを受けたい人に健常者が偏見を抱くようになった。(男性・37歳)
- ・ ホームヘルプサービスがなくなったから(男性・65歳)
- ・ 障害福祉課の方は何もしてくれない。(女性・38歳)
- ・ 障害者認定を提出しているのに、まだ、等級がこなく不満。(女性・54歳)
- ・ 自立支援に変わってから、放置されているように感じる。以前は担当の方がいて、作業所等を一緒に探してくれたが、今は病院の相談室に聞いて、作業所に一緒に行ってもらった。(女性・57歳)
- ・ 自立支援法で医療費が高くなった。(女性・43歳)
- ・ 政治の都合にふりまわされている。(女性・41歳)

9 災害対策について

(1) 災害への備え

問 41 災害に備えて何か準備をしていますか。(○は1つ)

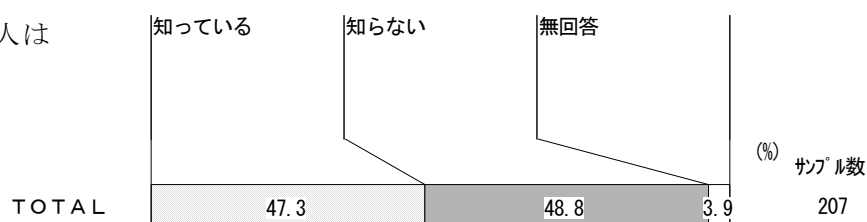
災害に備えて何か「準備している」人は、34.3%である。



(2) 避難所の認知状況

問 42 避難所を知っていますか。(○は1つ)

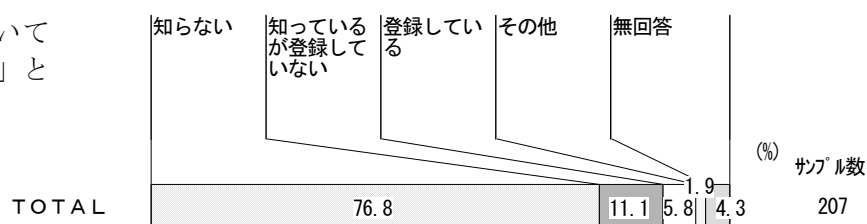
避難所を「知っている」人は47.3%である。



(3) 災害時要援護者登録の認知状況

問 43 災害時要援護者登録を知っていますか。(○は1つ)

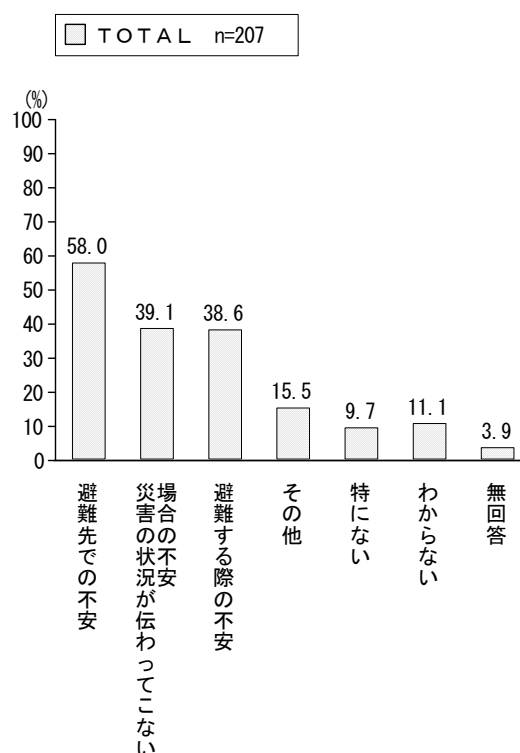
災害時要援護者登録については、76.8%の人が「知らない」と回答している。



(4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安

問 44 地震や台風などの災害が起こった際の不安は何ですか。(○はいくつでも)

地震や台風などの災害が起こった際の不安としては、「避難先での不安」をあげる人は58.0%と最も多い。

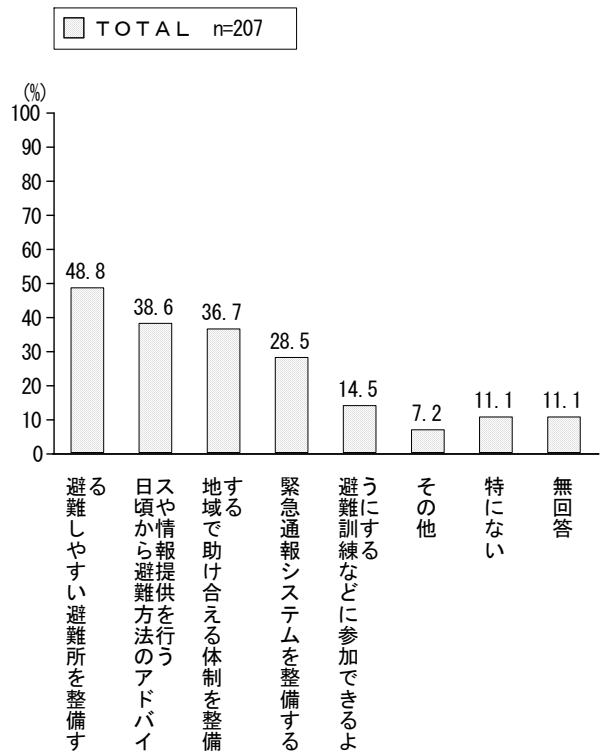


【精神障害者】

(5) 必要な災害対策

問 45 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

必要な災害対策としては、「避難しやすい避難所を整備する」ことをあげる人が48.8%と最も多く、次いで「日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う」(38.6%)、「地域で助け合える体制を整備する」(36.7%)と続いている。



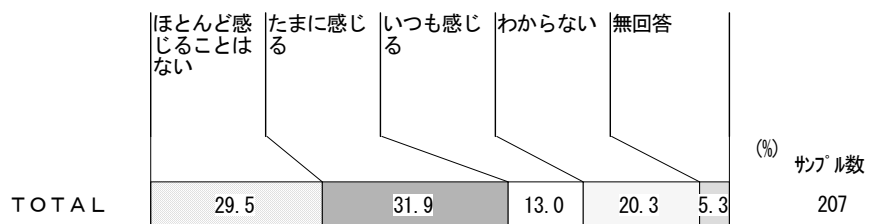
10 差別や人権侵害について

(1) 差別や人権侵害、虐待の状況

問 46 障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

問 47 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

差別や人権侵害、虐待については、約3割の人は「ほとんど感じることはない」(29.5%)が、13.0%は「いつも感じる」、31.9%は「たまに感じる」と回答している。



【参考】平成13年度調査結果との比較

「ほとんど感じることはない」は13年度に比べて9.2ポイント増加、「いつも感じる+たまに感じる」は13.1ポイント減少。

13年度 n=69	ほとんど感じることはない	たまに感じる	いつも感じる	わからない	無回答
	20.3%	34.8%	23.2%	14.5%	7.2%

差別や人権侵害、虐待の内容としては、具体的に以下のような記入があった。

① 言葉・視線

- ・ バスとかが半額になるから障害者っていいよねって、言われたりするとき。(女性・48歳)
- ・ 外出時に症状が出た時は、嘲笑する方がいる。(男性・27歳)

- ・ 娘を見る視線。例えば電車、バスに乗った時、私が座らず娘を座らせるので。(女性・45歳)
- ・ 散歩中ににらまれたり、買い物の道でバカにされたりするような気がした。(男性・25歳)
- ・ 思春期の娘に、「精神病の人は子ども産んじゃいけない」と言われるとき。(女性・47歳)
- ・ ニュースで精神障害者に対する記事が出たときのコメントで、「精神障害者は母親になるべきではない」など、かたよった見方が大勢を占めていること。(女性・28歳)
- ・ 学校や公共交通機関の中での冷たい視線、ひそひそ陰口など。(男性・13歳)
- ・ 家族が病気の人のことをばかにしている。職員も根底では障害者を下に見ている。(男性・59歳)
- ・ 外出時常に好奇の視線にさらされる。(女性・38歳)
- ・ 公共の場での冷たい「普通の」人間の嫌な視線。(女性・41歳)
- ・ 精神疾患に対する冷たい視線を感じます。(女性・60歳)
- ・ 障害を持ちながらの生活は不安で、利用できる制度について、いろいろ尋ねたときの発言とバカにした態度を取られた。(男性・41歳)
- ・ 学校生活・家庭・人と同じにできないとき。しかられたり、ののしられたり、イジメられたり、暴力をふるわれたり。(女性・27歳)

② 就労・職場

- ・ お仕事をする上で、病気のことをかくさないと、就労できないから。(男性・41歳)
- ・ うつ病だと面接で伝えたところ、「うちの会社はそういう人はちょっと」という感じでことわられたことがあります。腕の傷でバイトを首になったことがあります。(リストカットの跡)(女性・29歳)
- ・ 職場で働いているとき。(男性・49歳)
- ・ 企業へ面接に行ったとき。(男性・40歳)

③ 交通機関

- ・ バスに乗る際に、提示する障害手帳で、イヤな顔される。(男性・43歳)
- ・ 民間バスに乗る時に手帳を見せること。(女性・41歳)
- ・ 以前ダウン症の弟とバスに乗ろうとして乗車拒否されたこともあり、(他のお客様が気にするので、と言われてしまった) そういうことがあることをとても残念に思います。(女性・10歳)

④ 障害に対する理解不足や誤解

- ・ 自分は精神病で働けないと訴えても、その苦労を理解してもらえないとき。精神病に関心を持ってもらえないとき。(男性・38歳)
- ・ 障害のある方に(わかりやすい方に)対して、「甘やかし」をすることで、ルールを認知させてあげない。「優しい虐待」をしているのでは、ということが時々見受けられます。(女性・34歳)
- ・ 人に知られたくないことも、他人にもれるといやなことがある(女性・43歳)
- ・ バス等に乗っている時、他の乗客から話しかけられたりするが、本人は応答できない。そのことについて何度か「しつけ」「どういう子なの」と言われた。(女性・10歳)
- ・ 症状を誤解されている(女性・32歳)

⑤ その他

- ・ 普通の病院に行っても、まともに診察してもらえない(女性・48歳)
- ・ 手帳の種類によってなぜサービスが異なるのか。駐車場の割引・バスの割引など、身体と精神でなぜ差別するのか。(男性・55歳)

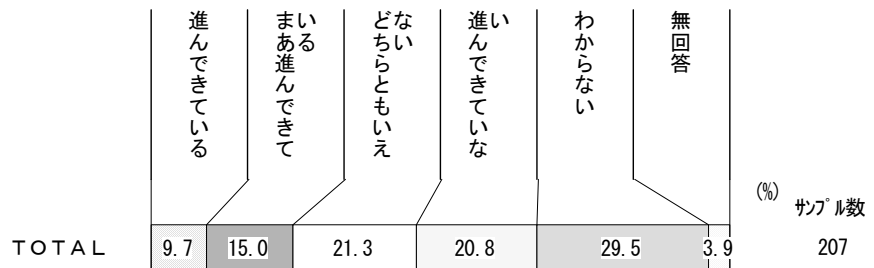
【精神障害者】

- ・ 公的機関（労災申請時）に病気を理由に却下されたことがある。（労基署、労基局、中央労働審査会）決定時に重要な時に、こういう差別があると絶望的になる。（男性・65歳）
- ・ 上から目線で、バカにされたような態度。どうせ生保だろみたいな。そんな感じ。（女性・48歳）
- ・ 身体障害に比べ精神への支援が大変少ないこと。（女性・41歳）
- ・ 病気をかくしているが、知られてしまうと差別を受けるだろうと思う。（女性・54歳）
- ・ ボランティアをしたいと市のボランティアセンターに相談に行った際、職員より「精神障害の人は長続きしない、時間を守らない、突然休む、などで紹介先よりクレームがくるので、登録、紹介はできない」と、勇気をもって行った本人につきつけられた。家族としてもショックの言葉でしたが、本人はもっと傷つきました。（女性・30歳）
- ・ 友人らの話の中で（男性・16歳）
- ・ 自分が障害者だとわかった瞬間、態度が変わる。引く。かかわりを持たなくなる。（女性・31歳）

（2）市民理解の進捗

問 48 あなたは障害や障害のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。（○は1つ）

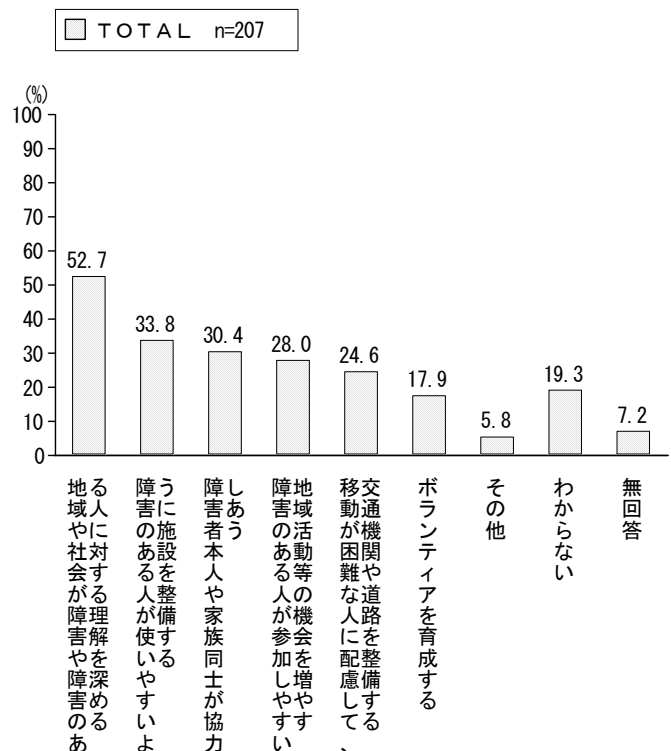
障害や障害のある人に対する市民の理解が「進んできている」と考えている人は9.7%、「まあ進んできている」（15.0%）をあわせると、24.7%の人は市民の理解が進んでいると考えていることがわかるが、「進んできていない」と考えている人も約2割（20.8%）みられる。



（3）障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと

問 49 障害のある方々が地域や社会に積極的に参加するために、特に大切なことは何だと思いますか。（○はいくつでも）

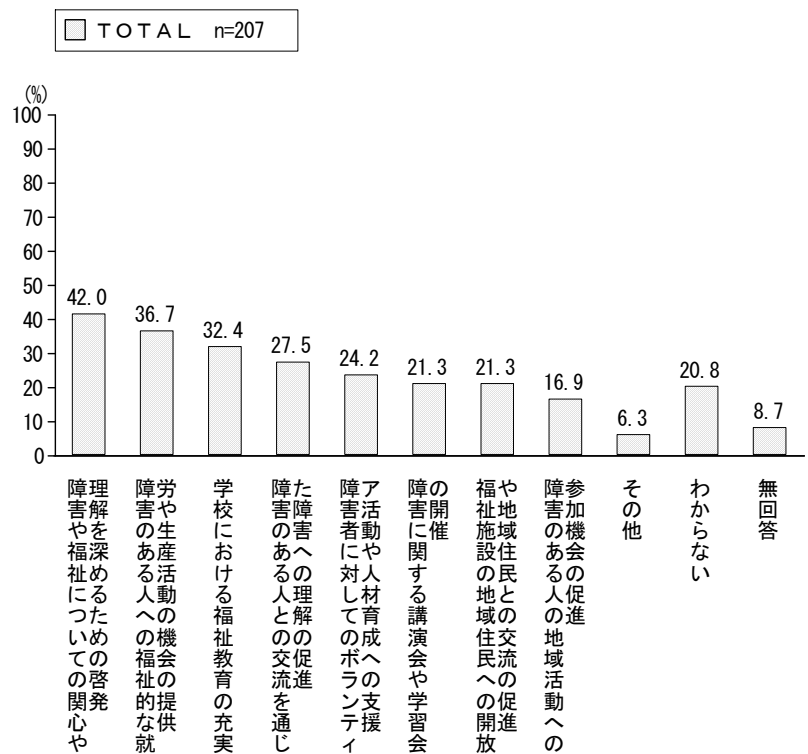
障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこととしては、「地域や社会が障害や障害のある人に対する理解を深める」ことをあげる人が52.7%と最も多く、次いで「障害のある人が使いやすいように施設を整備する」（33.8%）、「障害者本人や家族同士が協力しあう」（30.4%）と続いている。



(4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと

問 50 障害や障害のある市民への理解を深めるためには、何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

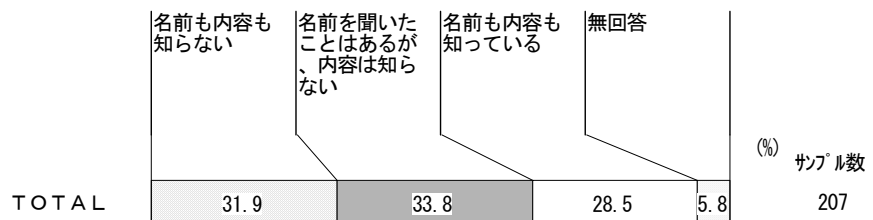
障害や障害のある市民への理解を深めるためには、「障害や福祉についての関心や理解を深めるための啓発」が必要だと考えている人が42.0%と最も多く、次いで「障害のある人への福祉的な就労や生産活動の機会の提供」が36.7%で続いている。



(5) 成年後見制度の認知状況

問 51 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(〇は1つ)

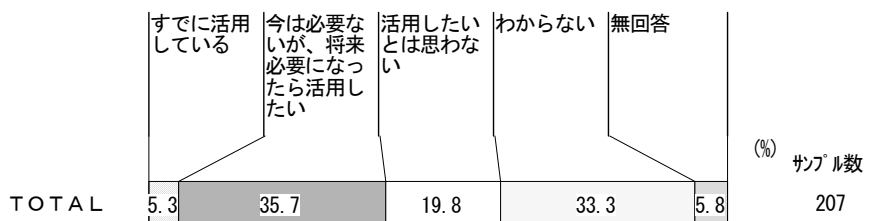
成年後見制度について、「名前も内容も知っている」人は28.5%で、31.9%は「名前も内容も知らない」と回答している。



(6) 成年後見制度の利用意向

問 52 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(〇は1つ)

成年後見制度を「すでに活用している」人は5.3%、「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」と考えている人は35.7%で、約4割の人には利用意向がある。



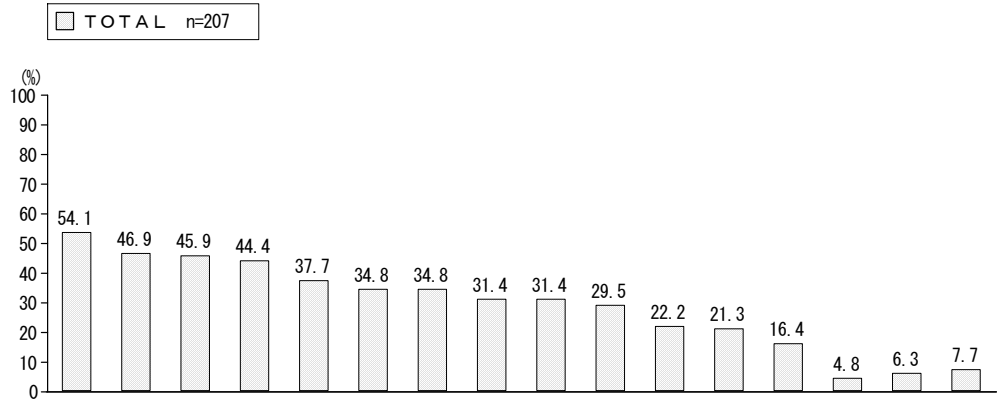
11 市への要望等

(1) 充実させていくべき障害者施策

問 53 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

今後、市が充実させていくべき障害者施策としては、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」をあげる人が54.1%と最も多く、次いで「障害者サービスや福祉に関する情報提供を充実させること」(46.9%)、「相談体制を充実させること」(45.9%)と続いている。

年齢別にみると、30代では「利用できる施設を増やすこと」をあげる人が48.6%と最も多い。

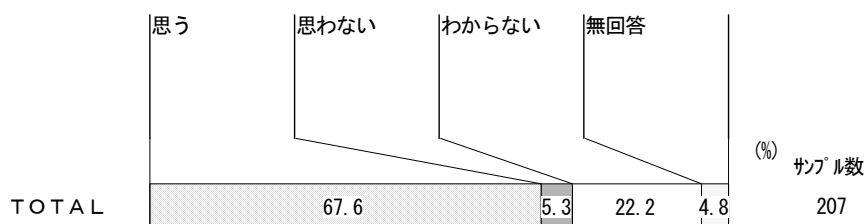


問3 年齢(10歳刻み)	n	施策															
		4	11	12	7	1	2	8	3	6	5	13	9	10	14	15	16
0 TOTAL	207	54.1	46.9	45.9	44.4	37.7	34.8	34.8	31.4	31.4	29.5	22.2	21.3	16.4	4.8	6.3	7.7
2 10代	4	100.0	50.0	50.0	25.0	50.0	25.0	75.0	100.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
3 20代	15	53.3	60.0	40.0	26.7	26.7	53.3	40.0	33.3	26.7	33.3	13.3	26.7	6.7	6.7	6.7	0.0
4 30代	37	62.2	54.1	56.8	43.2	45.9	40.5	37.8	21.6	48.6	24.3	18.9	29.7	18.9	5.4	10.8	0.0
5 40代	60	63.3	46.7	53.3	46.7	41.7	40.0	36.7	36.7	26.7	35.0	30.0	25.0	20.0	3.3	3.3	8.3
6 50代	46	47.8	47.8	45.7	47.8	34.8	28.3	26.1	23.9	28.3	23.9	10.9	10.9	10.9	2.2	4.3	6.5
7 60代	24	45.8	50.0	29.2	58.3	29.2	29.2	41.7	45.8	33.3	33.3	25.0	25.0	20.8	0.0	8.3	12.5
8 70歳以上	9	33.3	22.2	44.4	44.4	44.4	33.3	33.3	22.2	44.4	55.6	33.3	22.2	33.3	22.2	0.0	33.3
9 無回答	12	25.0	16.7	16.7	25.0	25.0	8.3	16.7	16.7	16.7	8.3	16.7	8.3	8.3	8.3	16.7	16.7

(2) 居住継続意向

問 54 今後も西東京市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

67.6%の人は、今後も西東京市に住み続けたいと「思う」と回答している。



【参考】平成 13 年度調査結果との比較

「住み続けたいと思う」は 13 年度に比べて 5.3 ポイント増加。

	住み続けたいと思う	住み続けたいと思わない	わからない	無回答
13 年度 n=69	62.3%	10.1%	26.1%	1.4%

(3) 意見・要望等

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介しよう心がけた。

① 情報提供に関すること

- ・ 都や市の精神障害者向けのサービスの内容をほとんど知らないのので、医療費の自立支援や障害者手帳の交付の際に、説明やパンフレットの配布などしていただけるといいと思います。(女性・60 歳)
- ・ 近隣の市に比べて、障害者に対する情報が少ないと思います。また手続きや申請更新の書類が年間に何件もあって、手続きしなければ生活できない状態になります。「あなたのこの一年の手続きはこのスケジュールで」という冊子や、ハガキでもいただけたらうれしい。(女性・38 歳)
- ・ ホームヘルプサービス、ショートステイ、生活サポートなどがあることを知らなかった。西東京市の精神障害者が使えるサービスをまとめたチラシのようなものをいただけたらよかったと思う。障害をもつ母として、子育ての支援にもなるという視点を西東京市にもってほしい。(男性・27 歳)

② 手続きや相談に関すること

- ・ 手続きした書類など早く届けてほしい。(女性・71 歳)
- ・ 家族のない障害者は何とも心細い生活をしていると思うと、公的なサービスはとても大事だと思います。一人一人がどんな介助が必要なのかは違いますから、やはりじっくりお話を聞いてくれる方が、信頼関係を築けた上で、その人の希望を細やかに叶えていただけたらと思います。(女性・54 歳)
- ・ 低料金の公共施設でカウンセリング精神相談をしてくれる所が欲しい。(男性・47 歳)
- ・ メンタル的な支援がほしいです。(男性・56 歳)

③ 各種サービスに関すること

- ・ 法人の障害者についての割引制度等を見ると、精神障害が入っていない事が多々。身体障害の支援団体に比べ精神側のロビー活動等、権利のアピールが弱かったのだろう。しかし、そういった区別が、さらなる区別や忘却をうながす事につながると思う。(女性・32 歳)

【精神障害者】

- ・ 金銭管理・書類の管理をしてくれたり、一緒にやってくれたり、手助け・アドバイスなどを受けられるものがあると良いと思います。(男性・34歳)
- ・ 日常生活で、自分で選んだり、決めたり、管理する行為や過程において、側面的に援助があることを願っています。よりよい援助があれば、人間らしく良く生きたと思えますし、幸せな気持ちも持つ事もでき、前向きな思考を持つ事ができ力もわいてきます。(男性・25歳)
- ・ 広報に部屋の掃除のサービスもやっているとあったので頼もうとしたら、一人暮らしの人だけだと言われた。家族のいる人は家族に手伝ってもらおうように言われた。赤ん坊がまだ小さくて、週末に家族が休みでも疲れていて頼めなかった。(男性・50歳)
- ・ 移動支援の利用について、親にとっては通学の送り迎え、習い事・児童デイサービス、放課後デイサービスの送り迎えなどこそ、負担で支援が必要な部分です。なぜ定期的な利用が不可なのか理由がわかりません。余暇活動に限定する必要があるのでしょうか。利用する側のニーズをくみ上げてほしいです。(女性・41歳)
- ・ 成人してから発達障害が見つかった人たちは療育を受けておらず、何かそのかわりになる基礎常識やコミュニケーションなどを学べるところが欲しい。(男性・34歳)
- ・ フレンドリーの出張所を2~3ヶ所駅前や交通至便の場所に開設していただきたい。障害者に対する相談や、障害者が大勢集まって憩える小規模のもので結構です。(女性・47歳)
- ・ グループホームに申し込みたいが、西東京市では週3回のデイケアか、作業所に通えるのが条件となっていて、役所の福祉課の推薦がもらえず申し込みもできない(女性・45歳)

④ サービス従事者・サービスの質に関すること

- ・ 精神障害者は非常に孤独を抱えて支援施設を利用する。その孤独を受け止める人格を、利用者は職員に期待する。孤独がわからない人間には、障害者の支援に向いていないと思う。(男性・47歳)
- ・ 地域包括支援センターを利用したことがあります(目的はリハビリ)、歌をうたうくらいで何の役にも立たず2回で行くのを止めた。職員の質の悪いのが、特に気になった。(男性・65歳)

⑤ 雇用・就労に関すること

- ・ 三鷹ハローワークに問い合わせたところ、精神障害者枠に対する求人は、ほとんど皆無に近い状態だと言われた。(女性・38歳)
- ・ 福祉作業所の賃金では生活が成り立たない。服薬しながら懸命に働いている人も多いと思う。具合が悪くなる度に休んでいては、クビになるのは目に見えている。それ程労働の対価として受け取る賃金の意味は厳しいものだと思う。その為には働く時間帯、働く場所への通勤時間等々、自分で十分に考え、決めていくことが大事だと思う。(女性・38歳)
- ・ 官公庁が率先して、民間企業の扉を、開いて欲しいと思う。(女性・38歳)
- ・ 将来的には就労を希望しているので、就労の場の拡充、相談体制の充実など希望します。また情報を入手しやすくしてほしいです。(女性・60歳)
- ・ 最低賃金ほど稼げない人は、最低賃金より少し低い時給から始め、上達してくれば徐々に賃金をあげていくようにして、一般のお店でアルバイトできるようにしてほしい。(男性・34歳)。
- ・ 障害者枠で仕事を探してもみつからないし、数が少ないし、仕事が見つからず働けないと、役立たずだと傷付き落ちこむ。何か人の役に立ちたい。働く自尊心みたいなのがわく。仕事が見つからないと自尊心みたいなものがズタズタ自信もなくなる(男性・34歳)

⑥ 経済的な援助に関すること

- ・ 精神病のため収入に困っています。生活保護を受けたいが、両親の持ち家があるため受けられません。現金収入になる具体的なサポートがほしいです。(男性・56歳)
- ・ 都内のバスだけでなく、電車賃も半額にしてほしい。活動する場を広げるため(男性・43歳)
- ・ カウンセリング料の補助がほしいです。働けなくて金銭面にとっても苦勞している人がいると思う。

その原因が精神的なものでカウンセリングにより温和されるかもしれないのにカウンセリング料が払えずカウンセリングが受けられず、働けなくて病院からでる薬や診察料だけで金銭面があっばくされる悪循環がある。(男性・34歳)

⑦ 医療・リハビリに関すること

- ・ 精神病院や医療法人が主導する福祉サービスはやめて欲しい。入院施設は必要悪であり早急に地域精神医療に代替させるべく施策を進めて欲しい。(女性・28歳)
- ・ 東大病院みたいな作業療法があったらいいなと思っています。(女性・55歳)
- ・ 精神障害者が一般病院に入院した時に主治医とかかりつけ医の間で情報(処方薬、症状等)のやりとりを医療機関同士でやっていただければ、正確なことが伝わって役に立つと思われます。まだ一般病院では、精神障害者は受け入れられていない様に感じられる時があります。(女性・49歳)
- ・ 息子は約17年間双極性感情障害で、入退院を繰り返し、最近は「そう」と「うつ」のサイクルが速くなって、約4年間退院できずにいます。息子は常に退院を希望しており、病状が悪い時にあの手この手を使って、やりとげようとします。担当医から長く置いておけないと言われたこともあり、背景には国の退院促進の方針があるからだと思うと不安がつります。(男性・44歳)

⑧ 家族亡き後等の不安に関すること

- ・ 親が死んだ後どうしたらいいかわからない。(男性・35歳)
- ・ 本人(妻)は知的障害者で長期入院、私(夫)は後期高齢の独居者です。私自身もう死も間近なため1人娘は結婚して遠方の他県に居り、私の死後妻はどうなるのか非常に不安です。(女性・51歳)
- ・ 現在、娘(29才)は家事手伝いで無職です。国民年金は親が支払っていますが、いつまでも払い続けられません。五体は満足であるから、通院先の心療内科の先生は、障害者年金はむずかしいと言われました。将来が心配です。(女性・62歳)
- ・ 息子29才は、中学2年から不登校となりました。引きこもりの生活は現在まで続いており、自閉症と知能が低いとの診断を入院の際テストを受け言われました。精神科の受診は、本人が納得しての受診で20才をすぎてからでしたので、何の手当もなく親が扶養しております。親はいまだに就労しており生活はできますが、親の死後を考えると不安になります。(男性・63歳)

⑨ 理解や権利擁護、差別・人権侵害等に関すること

- ・ 新聞では凶悪な事件が掲載されると、通院入院歴があった等と書かれている。あれは一種の人権侵害に当たるのではないかと思います。確かに犯行当時、心身喪失で罪が軽減となると、被害者家族は納得いかないというのも理解できるが、やはりそういう風評が主流だと思う。(女性・38歳)
- ・ ケータイ電話の割引があることを知り、手続きにいくとあきらかに店員さんの態度が変わりショックでした。市民の方が、特別な目で見なくなるのには相当な時間が必要だと思います。(女性・49歳)
- ・ 統合失調症に対する理解が進んでいない。(女性)
- ・ 発達障害についての啓発をすすめて下さい。怖がられたり、いじめられたり、いじめたり、親から放置されたり、なかったことにされたり、思うように育たないからとひどい仕打ちをうける。そのような子、人が1人でも減りますように。(男性・32歳)
- ・ 一般の方との接する機会が少ないと思う。市民との関わりが乏しすぎる気がする。体験・講座などで一緒に参加してほしい。障害者の考え方・工夫・目線・悩みなど、一般の人にも知ってもらいたい。(男性・34歳)
- ・ 健常者も障害者も義務教育のように、サービス活動に参加させれば良いと思う。交流とか教育、推進等と言っている時は、まだ障害者、健常者と区別されていると思う。障害者が世間で完全に溶けこむことはまだ難しいと思う。(女性・48歳)
- ・ いろいろな施設で障害者も地域住民も気軽に参加し学び知識を深められる講座・体験・スクール・勉強会があれば障害知識が広まると思う。企業の人でも気軽に参加できると障害者雇用に役立つかも。

【精神障害者】

手話・点字・介護講座まつばづえ・車いす・白杖・ちょうかくしょうがいを街の中で体験してみるとか「発達障害」には色々な種類があること、100人居れば100とおりみんな違うことなどを多くの人に知ってもらいたい。(男性・34歳)

- ・ なりたくて病気になったわけじゃないのに社会から白い目で見られたり、とても悲しいです。とても辛いです。人によっては甘えだ、がんばりがたりない、だらけているだけ、やれることはあるだろ、死にものぐるいでやってみろなど言われたりもします。どうしたらみとめてもらえるのでしょうか。病気は治りません。前向きに生きるために自分は社会になにができるのでしょうか。理解してもらうにはどう活動したらいいのでしょうか。ひとりでも多くの人が理解してくれたら私たちは救われる。理解してもらえる努力、それは何なのでしょうか。(女性・29歳)
- ・ 近所にどんな障害を持っている人が居て、どんな事に困っているのかを理解し、近所の住民や知らない人でも簡単に手助けできる優しい地域の輪があるとよい。一緒に買い物に行ったりなど、気軽に、ヘルパーさんやボランティアなどじゃなく近所で気軽に。(男性・34歳)

⑩ その他

- ・ 西東京市は以前にくらべて、障害者に対する理解や取り組みが非常に進んだと思い、役所の方々等、優しく話もしやすくなり、とてもありがたいと思います。(女性・31歳)
- ・ 高次障害について。2級手帳を取得しましたが、大変な苦勞を致しました。通常の知識では取得不可能です。市の担当者の説明も知識も役立たず、かかり付け医の助言とケアマネの折衝で東村山の病院でやっと認可されました。(女性・48歳)
- ・ 人と交流できる場があると良いのですが、そのような場があっても、結局、孤立してしまいます。デイケアに通っている頃は、仲良くなると自分の方から拒絶反応が起こり、楽しくない、面白くない、お金を払っているのに見返りが無いという思いになり、通わなくなりました。(女性・52歳)